



Infor LN 企業計画 発注先別供給 計画ユーザガイド

重要事項

本書に含まれる資料（あらゆる補足情報を含む）は、Inforの機密及び専有情報に相当し、かつそれを含むものです。

添付を使用するにあたり、使用者は、当該資料（当該資料のあらゆる修正、翻訳または翻案を含む）、すべての著作権、企業秘密、及びそれに関係するすべてのその他権利、権原及び利益はInforが独占所有するものであり、使用者には、別の契約（この別契約の契約条項によって、貴社の当該資料及びすべての関連する補足情報の使用が規定されます）に基づいてInforより貴社に使用許諾されたソフトウェアに関連し、またその使用を促進することのみを目的（以下、「目的」という）として、当該資料を使用するための非独占的権利以外、使用者の閲覧に基づく権利、権原及び利益（すべての修正、翻訳または翻案を含む）は付与されるものではないことを認識し、それに同意するものとします。

更に、同封の資料を使用するにあたり、使用者は、使用者が当該資料を極秘扱いで保管しなければならないこと、そして使用者の当該資料の使用は上述の「目的」に限定されることを認識し、それに同意するものとします。Inforは、本書に含まれる内容に誤りや洩れがないよう細心の注意を払っていますが、本書に含まれる内容が完全なもので、誤植やその他の誤りがなく、使用者の個別の要望を満たすことは保証しません。したがって、Inforは、本書（あらゆる補足情報を含む）の誤りまたは不備により、またはそれに関連して生じたあらゆる個人または団体に対する、あらゆる間接的または直接的損失または損害について、その誤りまたは不備が過失、事故またはその他の理由によるものであるかどうかにかかわらず、一切の責任を負わず、かつそれを放棄するものとします。

使用者の本資料の使用は、米国輸出管理法及びその他に限定しない輸出入の適用法に準拠するものとし、使用者は、本資料及びあらゆる関係資料または補足情報を当該法律に違反して、直接的または間接的に輸出または再輸出してはならず、またこれらの資料を当該法律により禁止されるいかなる目的にも使用してはなりません。

商標確認

ここに示す文字標章及び図形標章は、Infor及び/またはその関連会社ならびに子会社の商標または登録商標、あるいはその両方です。無断複製・転載を禁ず。参照されるすべての他の社名、製品名、商標名またはサービス名は各所有者の登録商標または商標です。

発行情報

文書コード	cpsupplyplanug (U9482)
リリース	10.5.1 (10.5.1)
発行日	2017 年 12 月 19 日

目次

文書情報

第1章 概要.....	9
発注先別供給計画.....	9
販売業者管理在庫.....	9
オーダー基準計画および VMI.....	10
概要.....	10
予測.....	10
確認済供給.....	10
改訂.....	11
制約.....	11
手順.....	12
VMI 取引先選択.....	12
VMI 関係の決定.....	13
全体的な手順.....	13
顧客予測の受取が設定されているかどうかのチェック.....	14
発注先予測の作成が設定されているかどうかをチェックするには.....	14
第2章 設定および手順.....	15
発注先側.....	15
顧客の供給計画を実行するには - 設定.....	15
顧客の供給計画の実行 - 手順.....	18
顧客側.....	20
発注先に、供給計画 - [設定] を実行させるには.....	20
発注先別供給計画、予測の送信.....	23
第3章 予測.....	25
予測 (VMI).....	25
予測データのライフサイクル.....	25
条件.....	25
総計期間.....	25
承認.....	26
改訂.....	26

予測凍結ゾーン.....	26
予測の合計予測と確認済予測.....	26
発注先のアクション.....	27
確認済予測.....	27
確認済予測および未確認予測.....	27
確認済予測の決定方法.....	28
確認済予測を設定するには (顧客側).....	29
確認済予測 (発注先側) の設定法.....	31
凍結ゾーン.....	33
予測凍結ゾーン.....	33
凍結ゾーンの計算の予測.....	34
第4章 確認済供給.....	37
確認済供給 (VMI).....	37
確認済供給データの使用.....	37
確認済供給データのライフサイクル.....	37
総計期間.....	38
供給範囲の確認.....	38
顧客のアクション.....	38
確認済供給タイプ.....	38
許可される値.....	38
確認済供給タイプの決定方法.....	39
第5章 計画方法.....	41
計画方法 (VMI).....	41
利用可能な方法.....	41
予測にもとづく VMI 計画.....	42
一般的な計画手順.....	42
パラメータ設定.....	42
確認済供給にもとづく VMI 計画.....	43
一般的な計画手順.....	43
パラメータ設定.....	44
在庫レベルにもとづく VMI 計画.....	44
一般的な計画手順.....	44
在庫レベルの指定.....	44

パラメータ設定.....	45
第6章 補充方法.....	47
補充方法 (VMI).....	47
計画方法および補充方法.....	47
利用可能な方法.....	47
計画方法と補充方法の可能な組合せ.....	48
計画方法と補充方法が異なる場合.....	49
合計予測にもとづいて計画し、確認済予測にもとづいて補充する場合.....	50
パラメータ設定.....	50
最小在庫にもとづく補充.....	51
パラメータ設定.....	51
マニュアル補充.....	51
パラメータ設定.....	52
第7章 最大在庫と最小在庫.....	53
最小在庫および最大在庫を実行するには.....	53
対応するパラメータ.....	53
最小レベル、最大レベル、または両方.....	53
在庫レベルを指定する方法.....	53
日数にもとづく供給計画.....	54
計画方法の目標.....	54
対応するパラメータ.....	54
最小レベル、最大レベル、または両方.....	54
最小係数および最大係数.....	54
計算.....	55
最小在庫および最大在庫を指定するには.....	57
品目の在庫バッファと最大在庫レベル.....	57
在庫レベルを指定する方法.....	57
固定在庫レベルの定義方法.....	57
時系列在庫レベルの定義方法.....	57
供給日数の定義方法.....	58
付録A 用語集.....	59
索引	

文書情報

この文書では、購買対象品目の供給計画が発注先にアウトソースされときのシナリオ、および適用可能な条件について説明します。

対象読者

本書は、顧客に代わって品目の供給を計画するためにLNを使用する計画者、あるいは特定品目の供給計画を発注先に委ねる計画者を対象としています。

対象読者には、実装コンサルタント、製品設計者、サポートスペシャリストなども含まれます。

必要な予備知識

企業計画パッケージについて、特に**オーダーベースの計画手順**についてある程度の基本的な知識があると本書の内容を容易に理解できます。

本書の概要

本書は以下の章で構成されています。

- 概要
発注先が顧客に、いつ、どのように品目を供給するのかを決定するための機能について概説します。
- 設定および手順
システムの設定方法および計画の実行方法をステップバイステップで説明します。発注先と顧客に分けて手順を示しています。
- 予測
予測のコンセプト、ならびに予測情報の作成/使用方法を説明します。
- 確認済供給
確認済供給のコンセプト、ならびに確認済供給の作成/使用方法を説明します。
- 計画方法
発注先が自サイトで十分な在庫を確保できるようにする方法を説明します。
- 補充方法
発注先が顧客サイトで十分な在庫を確保できるようにする方法を説明します。
- 最小在庫および最大在庫
合意済の最大/最小在庫レベルの利用方法を説明します。

本書の使い方

本書はオンラインヘルプトピックから編纂されたものです。したがって、本書では他のセクションへの参照を以下のように表記しています。

詳細については、「概要」を参照してください。参照セクションの場所を見つけるには、「目次」を参照するか、巻末の「索引」を利用してください。

下線付の用語は、用語集に載っているその用語の定義にリンクしていることを示しています。本書をオンラインで表示している場合は、下線付の用語をクリックすることで、巻末の用語集に載っているその用語の定義に移動できます。

コメント

弊社は常に文書の見直しや改善を行っていますが、この文書に関するご意見、ご要望などありましたら、documentation@infor.com にご連絡ください。

送信の際には文書番号およびタイトルを明記してください。情報が具体的であるほど迅速な対応が可能です。

Infor へのお問い合わせ

Infor 製品に関するお問い合わせは、Infor Xtreme Support ポータル www.infor.com/inforxtreme をご利用ください。

製品リリースに関する更新情報は、この Web サイトに掲載いたします。このサイトを定期的にご確認ください。

Infor ドキュメントに関するご質問・ご意見は、documentation@infor.com までご連絡くださいますようお願いいたします。

発注先別供給計画

このトピックでは、発注先が顧客の供給計画を実行する状況を LN がどのようにサポートするかについて概要を説明します。

会社は、一部の購買品目の供給計画を外注できます。この場合、その会社は、特定の日時に特定の数量を納入する発注先オーダーを送付しません。その代わりに、供給計画は、納入時期と納入数量を決定する発注先に委託されます。関連するすべての計画パラメータを指定する条件合意は、顧客および発注先によって取り決め済みです。この条件合意は、有効な販売契約または購買契約にリンクしています。

販売業者管理在庫

発注先による供給計画は、販売業者管理在庫 (VMI) の一部です。発注先が在庫の管理をするには、発注先は顧客サイトの倉庫を、発注先の LN システムの倉庫として定義します。

発注先別供給計画は、以下のテーブルで表示されている 3 つのシナリオに適用されます。

シナリオ	顧客サイトでの供給商 品の所有者	顧客サイトでの倉庫管 理の責任者	供給計画の責任者
完全な VMI	発注先	発注先	発注先
発注先による計画	顧客	顧客	発注先
顧客による倉庫管理	発注先	顧客	発注先

詳細は、販売業者管理在庫のオンラインマニュアルトピックまたは販売業者管理在庫ユーザガイド (U9501A JA) を参照してください。

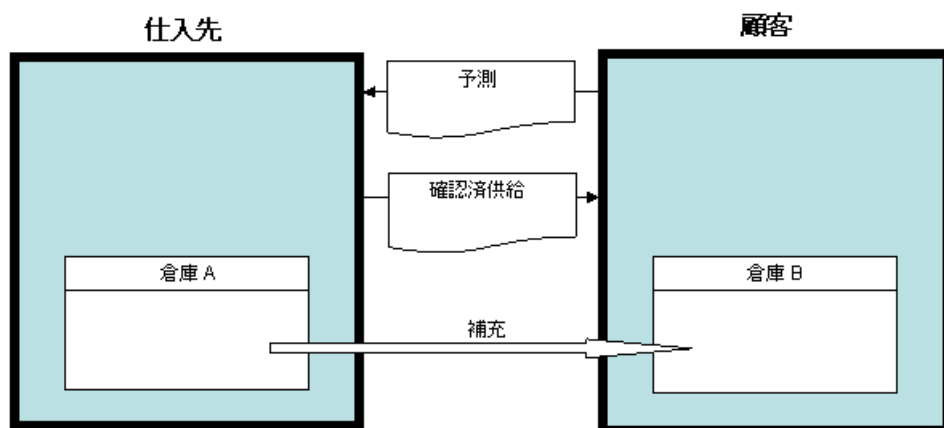
オーダー基準計画および VMI

標準のオーダー基準計画と発注先別供給計画の主な違いは以下のとおりです。

- 標準オーダー基準計画
通常、標準オーダー基準計画が適用される場合、企業計画は、発注先が納入する必要のある品目に対して計画購買オーダーを生成します。
- 発注先別供給計画
品目の発注先が、有効な VMI 発注先 の場合、企業計画は、品目に対して購買オーダーを作成しません。その代わりに、企業計画は発注先に送付する予測を生成できます。発注先は、その予測または顧客の実際の在庫レベルに基づいて供給計画を実行します。通常、補充は、倉庫移動を使用して実行されます。

概要

以下のダイアグラムは、発注先が計画を管理する環境の設定に関する、一般情報フローと商品フローを表しています。



予測

通常の場合、顧客は、発注先に品目の需要予測を送付します。発注先は、その予測をそのオーダー基準計画処理の入力値として使用できます。

顧客が品目の予測を送付しない場合、発注先は実際の在庫レベルに基づいて供給計画を作成します。

顧客は、この予測を予測期間に総計します。たとえば、予測は週別に定義できます。

企業計画は予測を生成できますが、顧客は発注先に予測を送る前にマニュアルで修正できます。

詳細については、次を参照してください: 予測 (VMI) (ページ 25)

確認済供給

段取にしたがって、発注先は顧客に確認済供給メッセージを送付します。

企業計画は確認済供給を生成できますが、発注先も他の方法を使用して確認済供給を決定できます。企業計画が確認済供給を生成した場合、発注先は確認済供給を顧客に送付する前にマニュアルで修正できます。

詳細については、次を参照してください: 確認済供給 (VMI) (ページ 37)

改訂

顧客が発注先に送付するそれぞれの予測には、改訂番号が付きます。対応する確認済供給は、同一の改訂番号で識別されます。

過去の改訂は将来の参照用に保存できます。LN が計画パラメータ (cprpd0100m000) セッションで保持する改訂数を定義できます。たとえば、LN を設定して最新の改訂 10 回分を保存できます。

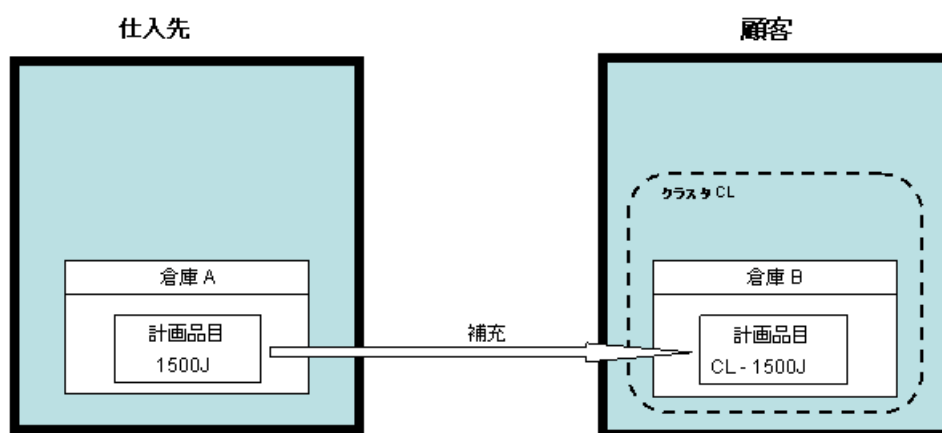
制約

予測および確認済供給には有効化コードは含まれません。ある品目が有効化構成供給に設定されると、その品目は VMI 発注先 が供給できなくなります。

VMI 計画品目に対しては、品目マスタ計画は利用できません。

例

以下のダイアグラムは、この状況が発注先のシステムでどのように表れるかを示しています。



この例では、発注先は以下のエンティティを定義しています。

- クラスタ CL。顧客サイトを表します。
- 倉庫 A。この倉庫は発注先自身のサイトにあります。
- 倉庫 B。クラスタ CL にリンクされた外部倉庫。
- 品目 1500J。発注先が製造し、顧客に販売する品目。
- 計画品目 1500J。デフォルト倉庫 A を使用します。注記: 品目コードのクラスタセグメントは空か、空でない場合は CL と異なっています。
- 計画品目 CL - 1500J。デフォルト倉庫 B を使用します。注記: 品目コードのクラスタセグメントは CL です。

この例の顧客は、予測を定期的に発注先に送っています。この予測に基づいて、発注先は計画物流オーダーを生成し、計画品目 **CL - 1500J** を倉庫 B (顧客側) へ納入し、**1500J** およびその構成要素の計画製造オーダーを配布します。

計画品目 **CL - 1500J** に対する計画オーダーは、確認済供給に変換できます。確認済供給は、発注先が約定した納入数量です。発注先はオプションで、確認済供給を顧客に送る前に、その確認済供給を変更できます。

最後に、発注先は、顧客に送った確認済供給に基づいて供給を再計画できます。確認済供給は受け取った予測と違うことがあるので、この計画を実行すると、予測に基づいた計画オーダーと異なる計画オーダーが作成されます。

手順

システムの設定方法、計画の実行法、および補充法についての設定法については、以下のトピックを参照してください。

- 発注先側
 - 顧客の供給計画を実行するには - 設定 (ページ 15)
 - 顧客の供給計画の実行 - 手順 (ページ 18)
 - 予測を送信する発注先別供給計画
- 顧客側
 - 発注先に、供給計画 - [設定] を実行させるには (ページ 20)
 - 発注先別供給計画、予測の送信 (ページ 23)

VMI 取引先選択

販売業者管理在庫 (VMI) を行う場合に LN が発注先を選択する方法を説明します。

VMI 機能の使用に対する制約についても説明します。

1つの品目について計画を実行できる VMI 発注先は、常に1つだけです。ただし、ある VMI 発注先から別の VMI 発注先への切り替えは可能です。LN は、現在の日付 (現時点) とシナリオ終了日の間で有効な条件合意を持つ発注先を検索します。

有効な VMI 発注先を選択するため、次の規則が適用されます。

- 有効な VMI 発注先が複数見つかった場合は、それぞれの条件合意の発効日および失効日に基づいてソートされます。
- ある VMI 発注先の有効期間が別の VMI 発注先の有効期間を完全に含んでしまう場合、含まれる方の VMI 発注先は無視されます。
- 有効な発注先が有効になるとすぐに、その発注先が VMI 発注先として選択されます。
- 特定の日付に VMI 発注先として有効な発注先がない場合、以降の日付に対して VMI 発注先を選択することはできません。たとえば、3 月に発注先に計画を実行させ、4 月は通常の計画方法を使用し、5 月に再び発注先に計画を実行させることはできません。これを行おうとすると、企業計画によってシグナルが生成され、通常の発注方法を使用して2番目の期間 (上の例では 5 月) が処理されます。

ただし、現在の日付からシナリオ終了日までの期間全体で、期間の最初の部分は通常の計画を使用し、次の一定期間は VMI 発注先が供給計画を実行し、期間の最後の部分は再び通常の計画を使用する、ということは可能です。

マルチソーシング

VMI 発注先が 1 つだけであれば、マルチソーシングが可能です。

マルチソーシングを行う場合、オーダー計画手順で所要量が生成され、通常の方法で、その所要量が利用可能ソースに配分されます。VMI 発注先に引当られた需要から予測が生成され、VMI 発注先に送信されます。その他の需要からは、計画購買オーダーまたは計画物流オーダーが生成されます。

優先順位はさまざまな発注先に割り当てられますが、VMI 発注先は常に優先順位 0、つまり最高の優先順位となります。

計画品目に対して有効な VMI 発注先および通常の発注先をすべて表示する手順は次のとおりです。

1. 品目 - 計画 (cprpd1100m000) セッションが開始されます。
2. 計画品目を選択します。
3. 適切なメニュー → [製品構造] → [計画品目別有効発注先] をクリックします。

VMI 関係の決定

このトピックでは、品目 - 計画 (cprpd1100m000) セッションの [VMI 関係] フィールドの値の決定方法について説明します。

注意

[VMI 関係] は表示専用であり、マニュアルで値を調整できません。

オーダー基準計画を実行するたびに、[VMI 関係] フィールドが再評価されます。現在の日付と計画範囲間の全期間が考慮されます。

この期間の任意の時点で適用可能な条件合意が見つかった場合、この条件合意が現在の日付において無効となっても、[VMI 関係] フィールドは [発注先予測の作成] または [顧客予測の受取] に設定されます。

このように、LN では、オーダー基準計画を実行すると VMI 機能が確実に実行され (必要な場合)、VMI 関連のセッションと機能が利用可能になるようになっています。

全体的な手順

- 品目 - 計画 (cprpd1100m000) セッションの [マスタ計画] チェックボックスをオフにする必要があります。
- オーダー計画は VMI 購買契約 [顧客予測の受取] が設定されているかどうかをチェックします。設定されていない場合、オーダー計画は [発注先予測の作成] をチェックします。
- どちらでもない場合、LN は [VMI 関係] フィールドを [適用なし] に設定します。

[顧客予測の受取] が設定されているかどうかのチェック

VMI 関係が [顧客予測の受取] オンに設定されているかどうかを決定するため、LN は次のアクションを実行します。

1. LN は、現在の日付 (現時点) と計画範囲間で有効な条件合意を持つ発注先 (購買元取引先) を探します。
LN は、計画品目のデフォルト倉庫も取得します。
この条件合意は、品目の組み合わせ、購買元取引先、および倉庫について有効である必要があります。
品目グループまたは製品タイプなどの品目のグループを定義する条件合意は、その品目のグループ内の各品目に対して有効です。同様に、倉庫が指定されていない条件合意は、すべての品目に対して有効です。
有効な購買契約のない条件合意は、有効な条件合意ではありません。
2. LN は、条件の検索属性に基づいて、現在の日付と計画範囲間で、有効な契約条件ラインを見つけます。
3. 計画条件 (tctrm1135m000) セッションの適用可能なレコードから、LN は、[発注先別供給計画] チェックボックスの値を取得します。
4. [供給計画の責任者] チェックボックスがオンの場合、LN は、[VMI 関係] フィールドを [発注先予測の作成] に指定します。

[発注先予測の作成] が設定されているかどうかをチェックするには

VMI 関係が [発注先予測の作成] に設定されているかどうかを決定するため、LN は次のアクションを実行します。

1. LN は、計画品目コードの最初のセグメントに基づいて計画品目のクラスタを取得します。次に、このクラスタに販売先取引先が存在するかをチェックします。
クラスタの販売先取引先は、クラスタ (tceimm1135m000) セッションの [販売先取引先] フィールドで定義されます。オプションでクラスタの販売先取引先もそこで定義できます。
2. LN は、品目の組み合わせ、販売先取引先、およびオプションで出荷先取引先、についての有効な条件合意を探します。
品目グループまたは製品タイプなどの品目のグループを定義する条件合意は、その品目のグループ内の各品目に対して有効です。
有効な販売契約のない条件合意は、有効な条件合意ではありません。
3. LN は、条件の検索属性に基づいて、現在の日付と計画範囲間で、有効な契約条件ラインを見つけます。
4. 計画条件 (tctrm1135m000) セッションの適用可能なレコードから、LN は、[供給計画の責任者] チェックボックスの値を取得します。
5. [発注先別供給計画] チェックボックスがオンの場合、LN は、[VMI 関係] フィールドを [顧客予測の受取] に指定します。

発注先側

顧客の供給計画を実行するには - 設定

このトピックでは、販売業者管理在庫 (VMI) 状態で顧客の供給計画を実行するための、システムの設定方法について記述します。

顧客の供給計画を実行するには、以下のデータを設定する必要があります。

ステップ 1: 導入済ソフトウェア構成要素

導入済ソフトウェア構成要素 (tccom0500m000) 詳細セッションで、以下のフィールド設定します。

- [条件]
[モジュール] で、[条件] チェックボックスをオンにします。
- [外部所有権]
[コンセプト (ロジ)] の下で、[外部所有権] チェックボックスをオンにします。
- [VMI (発注先側)]
[コンセプト (ロジ)] の下で、[VMI (発注先側)] チェックボックスをオンにします。これにより、発注先側の 販売業者管理在庫 (VMI) 機能が利用可能になります。

ステップ 2: クラスタ

クラスタ (tcemm1135m000) セッションで、顧客サイトを表すクラスタを定義します。

以下のフィールドを適切な値に設定します。

- [外部]
このクラスタと販売先取引先と関連づけるには、[外部] チェックボックスをオンにします。
- [販売先取引先]
[販売先取引先] フィールドで供給計画を実行する対象の顧客を入力します。
- [出荷先取引先]
同一顧客の複数サイトに出荷する場合は、品目を出荷する顧客サイトを表す出荷先取引先を指定します。

ステップ 3: 倉庫

倉庫 (whwmd2500m000) セッションで、顧客サイトの倉庫を定義します。

以下のフィールドを適切な値に設定します。

- [企業計画に含む]
計画処理がこの倉庫での在庫を考慮するようにするには、[一般] で、[企業計画に含む] チェックボックスをオンにします。
- [外部サイト]
[関係] > [サイト] の、[外部サイト] フィールドで、[Yes] を選択します。
- [クラスタ]
[関係] > [サイト] の、[クラスタ] フィールドに、前の手順で定義したクラスタを入力します。

注記: この倉庫での入庫および出庫作業を管理する場合、[在庫管理] チェックボックスもオンにする必要があります。

ステップ 4: 条件合意 (計画)

条件 (tctrm1100m000) セッションで、タイプが [販売] の条件合意を定義します。詳細な設定法については条件の設定

条件グループの計画関パラメータを利用可能にするには、検索条件検索レベル (tctrm1610m000) セッションで [計画] チェックボックスをオンにします。

基本条件ラインを設定した後で、条件ライン (tctrm1620m000) セッションを開始し、[計画] タブをクリックし、レコードを入力します。以下のフィールドに適切な値に設定します。

- [供給計画の責任者]
顧客の供給計画の実行を指定するには、[供給計画の責任者] チェックボックスをオンにします。
- [予測]
[予測] の下のフィールドの設定法については、予測 (VMI) (ページ 25) を参照してください。
- [在庫レベル]
[在庫レベル] 関連フィールドの使用法については、最小在庫および最大在庫を実行するには (ページ 53) を参照してください。
- [確認済予測]
[確認済予測] の下のフィールドの設定法については、確認済予測および未確認予測 (ページ 27) および確認済予測 (発注先側) の設定法 (ページ 31) を参照してください。
- [確認済供給]
[確認済供給] の下のフィールドの設定法については、確認済供給 (VMI) (ページ 37) を参照してください。
- [計画]
[計画] 関連フィールドの使用法については、補充方法 (VMI) (ページ 47) および計画方法 (VMI) (ページ 41) を参照してください。

ステップ 5: 条件合意 (オーダー)

条件 (tctrm1100m000) セッションで、前の手順で定義した条件合意を選択します。

条件グループのオーダ関パラメータを利用可能にするには、検索条件検索レベル (tctrm1610m000) セッションで [オーダ] チェックボックスをオンにします。

条件ライン (tctrm1620m000) セッションを開始して、[オーダ] タブをクリックし、レコードを入力します。以下のフィールドに適切な値に設定します。

[転送タイプ] フィールドの値によって、LN が倉庫移動または販売転送のどちらを使用して品目を顧客の倉庫に出荷するかが決まります。一般的には、倉庫移動がもっとも単純なソリューションですが、販売転送にはいくつかの追加機能があります。

[支払] フィールドに [貨物引換払] の値が入っている場合は、[転送タイプ] フィールドを [倉庫移動] に設定することはできません。

ステップ 6: 販売契約

販売契約 (tdsls3500m000) セッションで、自社と顧客間の販売契約を定義します。

以下のフィールドを適切な値に設定します。

- [条件 ID]
[条件 ID] フィールドでの前のステップで定義した条件合意を入力します。

ステップ 7: 企業計画パラメータ

計画パラメータ (cprpd0100m000) 詳細セッションで、以下のフィールドを設定します。

- [改訂数]
LN が保存する予測および確認済供給の改訂数を指定するには、[改訂数] フィールドを使用します。
- [予測の自動承認]
すべての予測メッセージをチェックなしで承認すると指示するには、[予測の自動承認] チェックボックスを使用します。

ステップ 8: 計画品目

品目 - 計画 (cprpd1100m000) セッションで、顧客に納入する品目に対する顧客サイトでの品目在庫を表す計画品目を定義します。計画品目のクラスタセグメントで、ステップ 2 で定義したクラスタを入力します。

以下のフィールドを適切な値に設定します。

- [デフォルト供給ソース]
計画物流オーダを使用して品目を供給するには、[デフォルト供給ソース] フィールドを [物流] に設定します。
直送を使用して品目を発注先から顧客に供給するには、[デフォルト供給ソース] フィールドを [品目ソース] に設定します。
- [デフォルト倉庫]
[デフォルト倉庫] フィールドのステップ 3 で定義した倉庫を入力します。
- [VMI 関係]
計画処理を実行する場合、LN は [VMI 関係] フィールドを [発注先予測の作成] に自動で設定します。

自社サイトの在庫を増やすために、計画品目が、非クラスタ化品目か、または、品目の納入元のサイトに関連するクラスタを持っているものか、のいずれかなのかを定義します。

ステップ 9: 供給関係

供給関係 (cprpd7130m000) セッションで、自社のサイトから顧客サイトまでの供給関係を定義します。

注記：直送またはマニュアル補充を使用する場合、供給関係は必要ありません。

顧客に供給する上での複数会社物流オーダの使用に関する詳細な情報については、複数会社物流オーダの転送を参照してください。

ステップ 10: LN を BOD の発行用に構成する

ビジネスオブジェクト文書 (BOD) を使用して発注先と顧客間でデータ交換を行う場合は、BOD を設定する必要があります。詳細については、BOD 発行用の LN の構成を参照してください。

顧客の供給計画の実行 - 手順

このトピックでは、予測の受取から始まり、顧客サイトでの在庫の補充まで、顧客に対して品目を計画する上での発注先側の手順について記述します。

手順のすべてのステップで計画の概要を表示するには、品目顧客計画 (cpvmi0520m000) セッションを使用します。

顧客の供給計画

ここでは、手順に関して最も包括的なバリエーションについて記述します。パラメータ設定により、特定のステップをスキップできます。

ステップ 1: 顧客からの改訂別予測 (cpvmi0506m100)

条件ライン (tctrm1620m000) セッションで、[計画] タブの、該当する条件合意で [顧客からの予測受取] チェックボックスがオンになっている場合、顧客は計画スケジュール BOD を使用して予測を含むメッセージを送付してきます。

顧客が予測について別の改訂を送付してきた場合、顧客からの改訂別予測 (cpvmi0506m100) セッションを使用してこの改訂を検査できます。

ファックスまたはメールにより受け取った予測データを入力するには、顧客からの予測 (cpvmi0107m000) セッションを使用します。(ただし、LN では通常、予測を電子メッセージングにより自動で受け取ります。)

ステップ 2: 顧客からの予測の承認 (cpvmi0206m000)

予測改訂が承認されるまで、計画処理はその改訂を考慮しません。

予測を承認するには、以下の方法のいずれか 1 つを使用します。

- すべての受け取った予測をチェックなしで自動で承認するには、計画パラメータ (cprpd0100m000) セッションで、[予測の自動承認] チェックボックスをオンにします。
- 品目範囲の予測を承認するには、顧客からの予測の承認 (cpvmi0206m000) セッションを使用します。合意済凍結ゾーン- または凍結ゾーン+ に準拠しない改訂を除外するには、[凍結ゾーンでの予測変更の承認] チェックボックスをオフにします。

- 特定の品目に対する予測を承認するには、顧客からの改訂別予測 (cpvmi0506m100) セッションを開始し、品目および改訂を見つけ、[予測の承認] をクリックします。改訂が合意済凍結ゾーン - また凍結ゾーン + に準拠しない場合、LN は、違いを承認するかどうか質問してきます。

条件ライン (tctrm1620m000) セッションで、[計画] タブの、関連する条件合意で [供給の確認] チェックボックスがオフになっている場合、以下のステップをスキップし、ステップ 7 のオーダー計画の生成 (cprrp1210m000) を進めます。

ステップ 3: 予測にもとづく計画供給の生成 (cpvmi1211m000)

条件ライン (tctrm1620m000) セッションで、[供給の確認] チェックボックスがオンの場合、予測にもとづく計画供給の生成 (cpvmi1211m000) セッションを使用すると、顧客の計画品目の計画オーダーが生成されます。

注意: 品目コードのクラスタセグメントは、顧客サイトにある倉庫と関連したクラスタである必要があります。品目 - 計画 (cprpd1100m000) セッションの [VMI 関係] フィールドは、[発注先予測の作成] である必要があります。

ステップ 4: 確認済供給の生成 (cpvmi1210m000)

条件ライン (tctrm1620m000) セッションで、[計画] タブの、関連する条件合意で [供給の確認] チェックボックスがオンになっている場合、確認済供給を含む顧客メッセージを送付する必要があります。

確認済供給を生成するには、確認済供給の生成 (cpvmi1210m000) セッションを使用します。LN は、前のステップで生成された計画オーダーに基づいて確認済供給を生成します。

ステップ 5: 顧客への確認済供給 (cpvmi0108m000)

確認済供給をマニュアルでチェックして調整するには、顧客への確認済供給 (cpvmi0108m000) セッションを使用します。

計画条件 (tctrm1135m000) セッションの [供給範囲の確認] フィールドで、確認済供給メッセージで指定された納入を保証する必要のある日数を決定します。

ステップ 6: 顧客への確認済供給の承認 (cpvmi0208m000)

LN により送付確認済供給メッセージが顧客に送信される前に、それを承認する必要があります。

確認済供給を承認するには、以下の方法のいずれか 1 つを使用します。

- 品目の範囲に対して確認済供給を承認するには、顧客への確認済供給の承認 (cpvmi0208m000) セッションを使用します。確認済供給を承認する前に、セッションがどのチェックを適用する必要があるかを指定します。
- 特定の品目に対する確認済供給を承認するには、顧客への確認済供給 (cpvmi0108m000) セッションを開始し、品目および改訂を見つけ、[承認] をクリックします。

ステップ 7: 顧客への確認済供給の送付 (cpvmi0208m100)

確認済供給を送付するには、顧客への確認済供給の送付 (cpvmi0208m100) セッションを使用します。

確認済供給を顧客に送付するには、次の方法のいずれかを使用します。

- ビジネスオブジェクト文書 (BOD) を使用
[送付方法] の下で、[発行] または [出力および発行] を選択します。
- LN で制御しない
[送付方法] の下で、[出力] を選択します。LNからは情報が送信されません。その代わり、ファックスなどの手段で対応する必要があります。

ステップ 8: オーダ計画の生成 (cprrp1210m000)

確認済供給を生成し、承認した後に、品目の供給を計画する必要があります。品目の供給を計画するには、オーダ計画の生成 (cprrp1210m000) セッションを使用します。計画の処理では、関連する条件合意を考慮に入れます。計画条件 (tctrm1135m000) セッションの [計画基準] フィールドで、品目を計画する方法を決定します。

ステップ 9: 品目顧客計画 (cpvmi0520m000)

計画の結果を表示するには、品目顧客計画 (cpvmi0520m000) セッションを使用します。品目顧客計画には特定の顧客に対する需要と供給が表示されるのに対し、品目オーダ計画には、すべての発注先または顧客からの需要と供給が表示されます。

ステップ 10: オーダの転送計画 (cppat1210m000)

計画オーダを実際の製造オーダ、購買オーダ、および倉庫移動に変えるには、オーダの転送計画 (cppat1210m000) セッションを使用します。計画条件 (tctrm1135m000) セッションの [補充基準] フィールドの値により、一部の計画オーダは [発行予定外] とマークされ、実行レベルへの転送をブロックされます。

LNにより、顧客倉庫への出荷に対する計画物流オーダが、倉庫移動または販売転送に変換されます。該当の条件合意内のオーダ条件 (tctrm1130m000) セッションの [転送タイプ] フィールドにより、使用される転送のタイプが決まります。

履歴データのレビュー

予測および確認済供給の保存された全改訂の概要を表示するには、顧客からの予測改訂 (cpvmi0506m000) セッションを使用します。改訂をダブルクリックすると詳細が表示されます。

顧客側

発注先に、供給計画 - [設定] を実行させるには

このトピックでは、販売業者管理在庫 (VMI) 状態で発注先が供給計画を自社に代わって実行する場合の、システムの設定方法について記述します。

発注先が供給計画を実行する場合、以下のデータを設定する必要があります。

ステップ 1: 導入済ソフトウェア構成要素

導入済ソフトウェア構成要素 (tccom0500m000) 詳細セッションで、以下のフィールドを設定します。

- [条件]
[モジュール] で、[条件] チェックボックスをオンにします。
- [外部所有権]
[コンセプト (ロジ)] の下で、[外部所有権] チェックボックスをオンにします。
- [VMI (顧客側)]
[コンセプト (ロジ)] の下で、[VMI (顧客側)] チェックボックスをオンにします。これにより、顧客側の 販売業者管理在庫 (VMI) 機能が利用可能になります。

ステップ 2: 倉庫

倉庫 (whwmd2500m000) セッションで、品目が入庫する倉庫を定義します。

以下のフィールドを適切な値に設定します。

- [企業計画に含む]
計画処理がこの倉庫での在庫を考慮するようにするには、[企業計画に含む] チェックボックスをオンにします。

注記：発注先がこの倉庫での入庫および出庫作業も管理する場合、[在庫管理] チェックボックスをオフにする必要があります。

ステップ 3: 取引先

取引先 (tccom4500m000) セッションで、発注先を定義します。

購買元取引先に関連するデータを指定するには、[購買元取引先] をクリックして、購買元の取引先 (tccom4120s000) セッションを開始します。

ステップ 4: 条件合意

条件 (tctrm1100m000) セッションで、[購買] タイプの条件合意を定義します。詳細な設定法については条件の設定を参照してください。

条件グループの計画関パラメータを利用可能にするには、検索条件検索レベル (tctrm1610m000) セッションで [計画] チェックボックスをオンにします。

基本条件ラインを設定した後で、条件ライン (tctrm1620m000) セッションを開始し、[計画] タブをクリックし、レコードを入力します。以下のフィールドに適切な値に設定します。

- [予測]
[予測] の下のフィールドの設定法については、予測 (VMI) (ページ 25) を参照してください。
- [在庫レベル]
[在庫レベル] 関連フィールドの使用法については、最小在庫および最大在庫を実行するには (ページ 53)を参照してください。

- [確認済予測]
[確認済予測] の下のフィールドの設定方法については、確認済予測および未確認予測 (ページ 27) および確認済予測を設定するには (顧客側) (ページ 29) を参照してください。
- [確認済供給]
[確認済供給] の下のフィールドの設定法については、確認済供給 (VMI) (ページ 37) を参照してください。
- [計画]
[計画] 関連フィールドの使用方法については、補充方法 (VMI) (ページ 47) および計画方法 (VMI) (ページ 41) を参照してください。

ステップ 5: 購買契約

購買契約 (tdpur3100m000) セッションで、自社と顧客間の購買契約を定義します。

以下のフィールドを適切な値に設定します。

- [条件 ID]
[条件 ID] フィールドでの前のステップで定義した条件条件を入力します。

ステップ 6: 企業計画パラメータ

計画パラメータ (cprpd0100m000) 詳細セッションで、以下のフィールドを設定します。

- [改訂数]
LN が保存する予測および確認済供給の改訂数を指定するには、[改訂数] フィールドを使用します。
- [確認済供給の自動承認]
すべての確認済供給メッセージをチェックなしで承認すると指示するには、[確認済供給の自動承認] チェックボックスを使用します。

ステップ 7: 計画品目

品目 - 計画 (cprpd1100m000) セッションで、計画品目を定義します。通常、計画品目のクラスタセグメントは、空のままにしておく必要があります。計画品目は非クラスタ化品目です。

以下のフィールドを適切な値に設定します。

- [デフォルト倉庫]
[デフォルト倉庫] フィールドのステップ 2 で定義した倉庫を入力します。
- [VMI 関係]
計画処理を実行する場合、LN は [VMI 関係] フィールドを [顧客予測の受取] に自動で設定します。

ステップ 8: LN を BOD の発行用に構成する

ビジネスオブジェクト文書 (BOD) を使用して発注先と顧客間でデータ交換を行う場合は、BOD を設定する必要があります。詳細については、BOD 発行用の LN の構成を参照してください。

発注先別供給計画、予測の送信

顧客側では、次の手順があります。

- 手順 1: 予測の送信
- 手順 2: 確認済供給の受領

予測を送信してから確認済供給を受領するまでの間は、発注先が計画を実行します。発注先のアクションについては、顧客の供給計画の実行 - 手順 (ページ 18)を参照してください。

予測の以前の改訂および対応する確認済供給を確認するには、発注先への改訂別予測 (cpvmi0503m100) セッションを使用します。

手順のすべてのステップで計画の概要を表示するには、品目発注先計画 (cpvmi0530m000) セッションを使用します。

予測の送信

ステップ 1: オーダ計画の生成 (cprrp1210m000)

オーダ計画の生成 (cprrp1210m000) セッションを実行します。計画処理により、利用可能な VMI 発注先、有効な購買契約、および条件合意に基づいて、品目 - 計画 (cprpd1100m000) セッションの [VMI 関係] フィールドの値が決まります。計画品目の VMI 役割が [顧客予測の受取] の場合は、顧客が供給計画を行うので、計画処理で品目の計画オーダは生成されません。

条件ライン (tctrm1620m000) セッションの [計画] タブで関連する条件合意の [予測を発注先に送信] チェックボックスがオンの場合、計画処理によって品目の予測が生成されます。

ステップ 2: 発注先への予測 (cpvmi0102m000)

予測をマニュアルで確認および調整するには、発注先への予測 (cpvmi0102m000) セッションを使用します。

予測が、関連する条件合意で指定された凍結ゾーン- および凍結ゾーン+ に適合していることを確認してください。

ステップ 3: 発注先への予測の承認 (cpvmi0202m000)

予測メッセージを発注先に送付する前に、予測を承認する必要があります。

予測を承認するには、次のいずれかの方法を使用します。

- 品目の範囲に対して予測を承認するには、発注先への予測の承認 (cpvmi0202m000) セッションを使用します。予測を承認する前に、セッションでどのチェックを適用するか指定します。
- 特定の 1 品目に対して予測を承認するには、発注先への予測 (cpvmi0102m000) セッションを開始して [送付承認の設定] をクリックします。

ステップ 4: 予測を発注先に送付 (cpvmi0202m100)

予測を送付するには、予測を発注先に送付 (cpvmi0202m100) セッションを使用します。

予測を送付するには、次のいずれかの方法を使用します。

- ビジネスオブジェクト文書 (BOD) を使用
[送付方法] の下で、[発行] または [出力および発行] を選択します。
- LN で制御しない
[送付方法] の下で、[出力] を選択します。LNからは情報が送信されません。その代わりに、ファックスなどの手段で対応する必要があります。

単一の品目に対する予測は、発注先への予測 (cpvmi0102m000) セッションの [送付] コマンドをしても送付できます。

履歴データのレビュー

予測および確認済供給の保存された全改訂の概要を表示するには、発注先への予測改訂 (cpvmi0503m000) セッションを使用します。改訂をダブルクリックすると詳細が表示されます。

予測 (VMI)

販売業者管理在庫 (VMI) における予測は、部品に対する需要であり、その品目を購入する顧客によって計算され、合意された条件に従って予測期間に総計されます。顧客は、品目の供給を計画する発注先に予測を送信します。

注意

履歴販売データにもとづいて将来の需要を見積るために使用する需要予測処理については、以下を参照してください。企業計画での需要予測。この2つのテーマは無関係です。

予測データのライフサイクル

オーダー基準計画の実行中、企業計画は計画製造オーダー、計画購買オーダー、および計画物流オーダーを生成して需要を満たします。ただし、計画品目が VMI 発注先から購買される場合、企業計画はその品目に対する計画オーダーを生成しません。計画オーダーの代わりに、企業計画は予測を生成します。

顧客は発注先に予測を送信します。

発注先は、予測を使用して供給を計画し、オプションで確認済供給を計算します。

条件

販売業者管理在庫 (VMI) を使用するには、発注先と顧客が条件合意を定義する必要があります。これは、共通情報パッケージの条件モジュールに保存されます。条件合意は契約にリンクされます。発注先はこの契約を販売契約として保存し、顧客はこの契約を購買契約として保存します。

詳細については条件の概要を参照してください。

総計期間

一般に、顧客は予測期間 (1 日、1 週間、5 週間など) に対して予測を総計します。予測期間の長さは、条件合意によって定義されます。顧客は、期間の総計を行わずに詳細需要データ送付することもできます。

例

予測期間が 1 週間の場合、品目 X に対する予測メッセージでは次のようなデータが指定されます。

期間	予測
週 20	350 個
週 21	410 個
週 22	360 個

承認

LN が予測を計算した後、顧客は必要に応じてマニュアルで予測を変更できます。LN が予測を発注先に送信する前に、顧客はデータを承認する必要があります。

予測改訂が承認されると、その予測改訂は、承認を取り消さない限り変更できません。予測改訂が発注先に送付された後は、承認を取り消すことはできません。

改訂

顧客はいくつでも予測メッセージを送信できます。改訂された予測メッセージには、すべて改訂番号が付けられます。この番号は 1 ずつ増分します。将来の参照用に以前の改訂を保存するかどうかが、保存する場合はいくつ保存するかを指定できます。

発注先が確認済供給メッセージを顧客に送付する場合は、その確認済供給のもとになっている予測改訂との関係が保持されます。

予測凍結ゾーン

発注先および顧客は、近い将来の予測は増減できないことを合意できます。この制約によって、発注先は、供給計画に対応するための十分な時間を確保できます。

詳細については、予測凍結ゾーン (ページ 33)を参照してください。

予測の合計予測と確認済予測

オプションで、予測を確認済予測と未確認予測に分割できます。発注先はこの情報をさまざまな方法で利用できます。たとえば、発注先は、合計予測にもとづいて内部製造計画を立て、確認済予測にもとづいて顧客に補充することができます。

より詳しい販売情報が利用可能になったり、顧客から新規の予測改訂が送信されたりすると、未確認予測が徐々に確認済予測に置換されます。

詳細については、確認済予測および未確認予測 (ページ 27)を参照してください。

発注先のアクション

発注先が受領した予測を計画処理で使用する前に、発注先はその予測を承認する必要があります。オプションで、自動的にすべての予測を承認するようにシステムを設定できます。

発注先は、予測を次の目的に使用します。

- 後で顧客に送信する確認済供給を計算する
- 顧客の倉庫に補充するための計画物流オーダーを生成する

詳細については、計画方法 (VMI) (ページ 41) を参照してください。

確認済予測

確認済予測および未確認予測

このトピックでは、確認済および未確認予測の概念について記述し、機能の概要を説明します。

様々なオプションの設定方法については、以下のトピックを参照してください。

- 確認済予測を設定するには (顧客側) (ページ 29)
- 確認済予測 (発注先側) の設定法 (ページ 31)

合計予測のどの部分が確認済予測かを決定するためのアルゴリズムの記述については、確認済予測の決定方法 (ページ 28) を参照してください。

発注先への予想の信頼性

自社が販売業者管理在庫 (VMI) を使用し、かつ、発注先が顧客の代わりに供給を計画する場合、発注先は、顧客から受け取った予測にもとづいて計画できます。

顧客は、確認済および未確認予測を区別できます。

- 確認済予測
顧客がその部分を消費することを確認する、合計予測の部分
通常、確認済予測は、実際の販売オーダー、販売スケジュールなどから算出されます。
- 未確認予測
顧客がその数量が必要かどうか確実ではない、合計予測の部分

確認済予測および未確認予測の合計を、合計予測といいます。通常、合計予測には、顧客の完成品に対する実際の販売オーダーにもとづく需要、将来の販売予測にもとづく予測需要が含まれています。

未確認予測を使用するには

確認済予測と未確認予測を区別する場合は、供給計画の計算基礎を、確認済予測または合計予測のどちらに置くか選択できます。

確認済供給付き

VMI 発注先が、顧客が受取を予定できる確認済供給付きの顧客メッセージを送付する場合、発注先は [合計予測] または [確認済予測] にもとづいて確認済供給を計算できます。

どちらの場合でも、発注先は確認済供給にもとづいて供給計画を作成できます。

確認済供給なし

発注先が、顧客が受取を予定できる確認済供給付きの顧客メッセージを送付しない場合、発注先は [合計予測] または [確認済予測] にもとづいて供給計画を作成できます。

計画が [合計予測] にもとづく場合、発注先は [合計予測]、[確認済予測] にもとづいて補充できます。計画が [確認済予測] にもとづく場合は、[確認済予測] にもとづく補充が可能です。いずれの場合も、補充は完全にマニュアルで処理することもできます。

品目発注先計画および品目顧客計画

品目発注先計画および品目顧客計画で、LN は、隣の列に [合計需要] フィールドおよび [確認済需要] フィールドを表示します。LN は、[計画利用可能(合計)] および [計画利用可能(確認済)] フィールドも表示します。このフィールドでは、発注先が在庫不足を回避できるかどうかを表示します。マイナスの計画利用可能数量は、予想在庫の不足を示します。

VMI 発注先が合計予測を満たせない場合、品目計画は、発注先が少なくとも確認済予測を供給できるかどうかを表示します。

確認済予測の決定方法

合計予測のどの部分が確認済予測でどの部分が未確認予測であるかを決定するアルゴリズムの設定方法を説明します。

一般的な概念については、確認済予測および未確認予測 (ページ 27)を参照してください。

2通りの方法

予測を VMI 発注先に送信する顧客の場合、確認済予測と未確認予測を区別するには 2つのアプローチがあります。

- [オーダタイプ] にもとづく方法
[販売オーダ]、[メンテナンス販売オーダ] など、確認済需要と考えられる需要のソースを定義できます。ソースがそれ以外であるすべての需要は、自動的に未確認需要と見なされます。確認済の完成品需要にペギングされた構成要素予測は、確認済予測です。
- [先頭期間] にもとづく方法
先頭のいくつかの予測期間を確認済予測として定義できます。たとえば、先頭の4週間のすべての需要予測を確認済予測とし、それ以降のすべての需要予測を未確認予測とします。

これらのアプローチについて、以降のセクションでさらに説明します。

オーダタイプにもとづく確認済予測

確認済予測と未確認予測をオーダタイプにもとづいて区別する場合、顧客は、予測のどの部分を確認済予測とするか定義する必要があります。顧客は、確認済需要として定義 (cpvmi0101m000) セッションでどのタイプのオーダを確認済予測とするか指定できます。指定されたオーダタイプに起因する独立需要および依存需要は、確認済予測と見なされます。計算例については、[確認済予測基準] フィールドのヘルプを参照してください。

顧客は、顧客から発注先に予測を伝えるメッセージの追加情報として、この情報を発注先に渡すことができます。

注意

- 顧客は、オーダータイプを無視し、すべての予測を確認済予測として、または確認済予測ではないものとして進めることができます。
- 顧客は、発注先に予測を送信する前に、確認済予測および未確認予測の値をマニュアルで修正できます。

先頭期間にもとづく確認済予測

近い将来の需要とそれより先の需要、という区別にもとづいて確認済予測を定義する場合、次のいずれかの方法を使用します。

- 顧客が発注先に送信する予測メッセージで、顧客は、どの予測が確認済予測でどの予測が未確認予測であるかを示します。
- 予測数量を確認済予測と見なす期間の数は、条件合意で定義されます。顧客は発注先に追加情報を送信しません。

注意

条件合意では、すべての予測を確認済予測と見なすことも指定できます。

確認済予測を設定するには (顧客側)

このトピックでは、販売業者管理在庫 (VMI) セッションでの、顧客の確認済予測および未確認予測の機能の設定法を説明します。

さまざまなオプションの概要については、確認済予測および未確認予測 (ページ 27)を参照してください。

基本設定

確認済および未確認予測を使用可能にするには、まず関連する条件合意を設定します。この設定法については、条件の設定を参照してください。

このトピックで記述するフィールドおよびチェックボックスはすべて、特に指定がない限り、計画条件 (tctrm1135m000) セッションにあります。

発注先が供給を計画すると指定するには、[発注先別供給計画] チェックボックスをオンにします。

確認済予測と未確認予測を区別するには、[確認済予測の使用] チェックボックスをオンにします。

以下の 2 つの方法を使用して確認済予測を設定できます。

- [オーダータイプ] にもとづいて
- [先頭期間] にもとづいて

オーダータイプにもとづいて確認済予測を設定するには

オーダータイプにもとづいて確認済予測を設定するには、以下の設定を使用します。

フィールド	値
[確認済予測の使用]	[Yes] (チェックボックスはオン)
[確認済予測の指定方法]	[メッセージ]
[確認済予測基準]	[確認済完成品需要]

確認済需要として定義 (cpvmi0101m000) セッションで、どのオーダタイプが確認済予測にする上で考慮対象になるかを指定します。

注意

オーダタイプを無視して、予測のすべてが確認済予測であるとして進めるには、[確認済予測基準] フィールドを [すべての予測] に設定します。どの予測も確認済予測でないとして勧めるには、[確認済予測基準] フィールドを [なし] に設定します。

先頭期間にもとづいて確認済予測を設定するには

各期間について、その期間の予測が確認済予測かどうかをメッセージ内で伝えることができます。この状況では、発注先は条件合意について知る必要はありません。これを行うには、次の設定を使用します。

フィールド	値
[確認済予測の使用]	[Yes] (チェックボックスはオン)
[確認済予測の指定方法]	[メッセージ]
[確認済予測基準]	[先頭期間]
[期間数]	確認済予測としてマークする必要のある、需要予測メッセージの期間数

予測数量が条件合意 (発注先と協議済みの) において確認済需要とみなされる期間数を定義するには、以下の設定を使用します。

フィールド	値
[確認済予測の使用]	[Yes] (チェックボックスはオン)
[確認済予測の指定方法]	[条件]
[確認済予測の分析]	[先頭期間]
[期間数]	確認済予測と解釈される、需要予測メッセージの期間数

注意

すべての予測が確認済予測とみなされると指定するには、[確認済予測の分析] フィールドを [すべての予測] に設定します。

確認済予測 (発注先側) の設定法

このトピックでは、販売業者管理在庫 (VMI) 状況での、発注先の確認済予測および未確認予測の機能の設定法を説明します。

様々なオプションの概要を見るには、確認済予測および未確認予測 (ページ 27)を参照してください。

基本設定

確認済および未確認予測を使用可能にするには、まず関連する条件合意を設定します。この設定法については、条件の設定を参照してください。

このトピックで記述するフィールドおよびチェックボックスはすべて、特に指定がない限り、計画条件 (tctrm1135m000) セッションにあります。

自社が顧客に供給を計画すると指定するには、[供給計画の責任者] チェックボックスをオンにします。

顧客が確認済予測と未確認予測を区別するには、[確認済予測の使用] チェックボックスをオンにします。

顧客は以下の 2 つの方法を使用して確認済予測を通知できます。

- 予測メッセージで。確認済予測のインジケータを使用するか、確認済予測の数量を指定します。
- 条件合意で。予測が確認済予測として解釈される固定期間数を指定します。

予測メッセージで送付された確認済予測

顧客が予測メッセージで確認済予測を送付する場合は、以下の設定を使用します。

フィールド	値
[確認済予測の使用]	[Yes] (チェックボックスはオン)
[確認済予測の指定方法]	[メッセージ]

条件にもとづく確認済予測

予測数量が、条件合意の確認済需要とみなされる期間数を定義するには、以下の設定を使用します。

フィールド	値
[確認済予測の使用]	[Yes] (チェックボックスはオン)
[確認済予測の指定方法]	[条件]
[確認済予測の分析]	[先頭期間]
[期間数]	確認済予測と解釈される、需要予測メッセージの期間数

注意

すべての予測が確認済予測とみなされると指定するには、[確認済予測の分析] フィールドを [すべての予測] に設定します。

確認済予測の使用

確認済予測メッセージには、次の 2 つの目的があります。

- 純粹に情報として
- 発注先が実行する計画の土台として

確認済予測を使用して、顧客との間で通知された確認済供給を計算できます。確認済供給を計算しない場合、確認済予測を使用して供給を計画できます。またオプションで、補充計画も決定できます。

確認済予測にもとづいて確認済供給を作成するには

確認済予測にもとづいて確認済供給を作成するには、以下の設定を使用します。

- [供給の確認] チェックボックスオンにします。
- [確認済供給基準] フィールドを [確認済予測] に設定します。

確認済予測にもとづいて計画または補充します。

以下のフィールドでは、供給の計画法および補充法を決定します。

- [計画基準] フィールド
- [補充基準] フィールド

これらのフィールドで利用できる値は、その他の多くのフィールドの設定に依存します。これらのフィールドに関する詳細な情報については、[計画基準] フィールドおよび [補充基準] フィールドのヘルプを参照してください。

確認済予測にもとづいて供給を計画するには、[計画基準] フィールドを [確認済予測] に設定します。

確認済予測にもとづいて品目を補充するには、[計画基準] フィールドおよび [補充基準] フィールドを [確認済予測] に設定します。

凍結ゾーン

予測凍結ゾーン

このトピックでは、短期的将来の予測での望ましくない変更を回避する方法について記述します。

予測での短期的な変更の回避

販売業者管理在庫 (VMI) 状態で、発注先が顧客に供給を計画している場合、発注先は顧客から受け取った予測を利用します。顧客が近い将来の予測を変更すると、発注先は時間内に計画を調整できなくなります。

以下のような問題が発生する可能性があります。

- 顧客が予測について新規の改訂を送付した結果、予測が急に増加する場合、発注先のリードタイムが長すぎるので、発注先は時間内に製造データレベルを適応させることができません。
- 顧客が突然予測を減らした場合、発注先は高い在庫の未使用の構成要素と部分組立品を抱えることになる可能性があります。

これらの問題を回避するために、顧客および発注先は、時間周期について合意できます。この合意では、顧客は予測の増減を認められません。この時間周期は条件合意で定義します。

注意

LN では、これらの制限は厳密には実行されません。制約はマニュアルで無効化できます。

凍結ゾーンを設定するには

凍結ゾーンは、計画条件 (tctrm1135m000) セッションの [凍結ゾーン -] フィールドおよび [凍結ゾーン +] フィールドで定義します。発注先および顧客の両者が、これらのフィールドを定義する必要があります。

[凍結ゾーン -] フィールドは、顧客が自由に予測を減らすことを禁止します。

[凍結ゾーン +] フィールドは、顧客が自由に予測を増やすことを禁止します。

両方のパラメータは、現在の日付からの暦日の日数で定義されます。

例

発注先は、需要の減少について少なくとも 14 日前の事前通知が必要です。発注先は、需要の増加について少なくとも暦日 21 日前の事前通知が必要です。

この制約に従うためには、発注先と顧客は、[凍結ゾーン -] フィールドを 14 に、[凍結ゾーン +] フィールドを 21 に設定する必要があります。

詳細な計算例については、凍結ゾーンの計算の予測 (ページ 34)を参照してください。

凍結ゾーン制約を使用するには

顧客側

予測を承認する際、LN ではその予測を以前送付された改訂と比較して、凍結ゾーンをチェックします。予測が凍結ゾーン+で増えている場合、または凍結ゾーン-で減っている場合、システムからその改訂を承認するかどうか確認を求められます。

凍結ゾーンで予測が変更された場合に LN が実行すべきことを決定するには、発注先への予測の承認 (cpvmi0202m000) セッションの [凍結ゾーンでの予測変更の承認] チェックボックスを使用します。

凍結ゾーンの制約に従わない予測を承認すると、発注先がこの予測の承認を拒否する可能性があります。

発注先側

顧客から受領した予測を承認する際、LN ではその受領した予測を以前に受領した改訂と比較して、凍結ゾーンをチェックします。予測が凍結ゾーン+で増えた場合、または凍結ゾーン-で減った場合、システムはその改訂を承認するかどうか聞いてきます。

注意

凍結ゾーンの最終日を決定するために、LN は予測を受け取った日付を参照して使用します。

凍結ゾーンで予測が変更された場合に LN が実行すべきことを決定するには、顧客からの予測の承認 (cpvmi0206m000) セッションの [凍結ゾーンでの予測変更の承認] チェックボックスを使用します。

凍結ゾーンの計算の予測

このトピックでは、凍結ゾーン-または凍結ゾーン+内で、以前に送付された改訂と比較して予測について、変更が発生するかどうかを LN によってチェックする方法を記述します。

凍結ゾーンの機能の一般的な概要については、予測凍結ゾーン (ページ 33)を参照してください。

詳細な計算

凍結ゾーンの計算についての詳細は以下のとおりです。

- LN は、計画条件 (tctrm1135m000) セッションの [凍結ゾーン +] フィールドおよび [凍結ゾーン -] フィールドから、凍結ゾーンを取得します。

条件合意の関連するバージョンを選択するために、LN は、現在の日付後の先頭期間の開始日を発効日として取得します。

- 顧客側では、凍結ゾーン+の終了日を取得するために、LNによって[凍結ゾーン+] フィールドの日数を現在の日付に加算します。同様に、LN は、[凍結ゾーン-] フィールドの値を使用して、凍結ゾーン-を計算します。発注先側では、LN同様の計算を実行しますが、LN は、現在の日付ではなく予測の受取日を使用します。
LN は、特定のカレンダーを対象にこの日付を計算しません。すべての暦日が計算されます。
- LN は、以前に送付された改訂の予測に対する予測をチェックします。過去に改訂が存在しない場合、LN は、以前の予測をゼロ (0) とみなします。
- LN は、現在の日付以前の予測を現在の日付後の先頭期間に加算します。
同様に、以前に送付された改訂について、LN は、改訂が送付された日付以前の予測を送付日後の先頭期間に加算します。
- 現行の予測およびその予測の以前の予測が、同じ期間数を持ち、これらの期間の開始日が同じ場合、LN は、凍結ゾーンのチェックを各期間ごとに別個に実行します。予測の期間数および開始日が同じでない場合、LNは、範囲内のすべての期間の予測の合計を使用し、合計のみをチェックします。
- 以前の改訂と比較して予測が凍結ゾーン+で増えた場合、または、これらの値が凍結ゾーン-で減った場合、システムは、凍結ゾーンの制約に違反していると結論付けます。

これらのチェックは常に、予測を承認するセッションから開始します。LN は、不合格となった凍結ゾーンチェックに対して様々な方法で対応できます。詳細については、凍結ゾーン制約を使用するにはを参照してください。

例

以下の例では、凍結ゾーン+ および凍結ゾーン- は 20 日となっています。

期間	期間開始日	予測改訂 1	現行予測	
1	4 月 2 日	15	15	現在の日付は期間 2 に含まれ、範囲は期間 5 に含まれます。したがって、LN は、期間 3、4、および 5 をチェックします。
2	4 月 9 日	20	20	
3	4 月 16 日	20	25	改訂 1 の送付日と現在の日付は期間 2 に含まれるので、LN は、期間 1、および期間 2 から 3 までの予測を加算します。
4	4 月 23 日	20	15	予測改訂 1 について、期間 3 の予測は 55 (15+20+20) になります。現行予測について、期間 3 の予測は 60 になります。この増加は凍結ゾーン+では認められません。
5	4 月 30 日	20	20	
6	月 2 日 7	25	25	顧客が期間 3 の現行予測を 60 から 55 に調整し、再試行したとします。今度は、期間 3 はテストに合格しますが、期間 4 では 20 から 15 に減ったことが示され、凍結ゾーン-のチェックに不合格になります。
7	月 2 日 14	25	50	
8	月 2 日 21	25	20	

予測改訂 1 の送付日	4 月 10 日	期間 2	期間 5 は承認されます。
現在の日付	4 月 13 日	期間 2	期間 6 は、この期間は凍結ゾーン範囲を超えているのでチェックされません。
範囲	月 2 日3	期間 5	
指標日			

例

以下の例では、凍結ゾーン+ および 凍結ゾーン- は 20 日です。

期間	期間開始日	予測改訂 1	現行予測	現在の日付は期間 3 に含まれます。したがって、LN は期間 4、5 および 6 をチェックします。
1	4 月 2 日	15		
2	4 月 9 日	20		予測改訂 1 について、改訂 1 の送付日は期間 2 に含まれるので LN は、期間 1 および 期間 2 から 3 までの予測を加算します。しかし、期間 3 はチェックの必要がありません。
3	4 月 16 日	20	5	
4	4 月 23 日	20	15	現行予測について、現在の日付は期間 3 に含まれるので LN は、期間 3 から期間 4 の予測を加算します。
5	4 月 30 日	20	20	
6	月 2 日7	25	25	現行予測について、期間 4 の予測は 20 (5+15) になります。この値は予測改訂 1 での期間 4 の予測と同じです。したがって、期間 3 はチェックの必要がありません。
7	月 2 日14	25	60	
8	月 2 日21	25	30	期間 5 および 6 も承認されません。
予測改訂 1 の送付日	4 月 10 日	期間 2		
現在の日付	4 月 19 日	期間 3		
範囲	月 2 日9	期間 6		
指標日				

確認済供給 (VMI)

VMI 発注先は、顧客に確認済供給メッセージを送信できます。確認済供給は、計画納期に顧客に納入されることを発注先が確認した品目の数量です。確認済供給は、顧客が要求した数量より少なくてもかまいません。

確認済供給データの使用

LN では、確認済供給データについて次の 2 とおりの使用方法があります。

- 計画条件 (tctrm1135m000) セッションの [供給の確認] チェックボックスがオンの場合、確認済供給を顧客に伝えます。
- [計画基準] フィールドが [確認済供給] の場合、LN は確認済供給を使用して顧客に供給するための計画オーダーを生成します。

確認済供給データのライフサイクル

最長の場合、確認済供給のライフサイクルを構成する段階は次のとおりです。

1. 発注先が、受領した予測にもとづいて品目の計画供給オーダーを生成する
2. VMI 発注先が、計画供給オーダーおよび実際供給オーダーを確認済供給に変換する
3. 製造能力が限られている場合や構成要素の不足によってすべての計画オーダーを実行できない場合などは、オプションで、発注先が確認済供給を調整します。
別の方法として、発注先がマニュアルで確認済供給を入力します。
4. 発注先は確認済供給を承認し、確認済供給を顧客に送信します。

別の方法として、確認済供給を次のように使用することもできます。

1. 発注先が顧客から予測を受け取ります。
2. 発注先がマニュアルで確認済供給を入力します。
3. 発注先は確認済供給を承認し、確認済供給を顧客に送信します。

確認済供給に承認済のマークが付くと、その改訂番号の確認済供給は変更できません。確認済供給が顧客に送付されるまでは、承認の取り消しができます。

この手順の詳細は、発注者と顧客によって定義される条件合意で管理されます。詳細については条件の概要を参照してください。

総計期間

供給日は予測期間に依存しません。

供給日は、条件合意で指定された納入日時をもとに決定できます。それらの納入日時は、計画条件 (tctrm1135m000) セッションの [納入時] フィールドで指定できます。

[供給範囲の確認]

発注先は、計画条件 (tctrm1135m000) セッションの [供給範囲の確認] フィールドで指定された日数に対する確認済供給情報を送付する必要があります。

顧客のアクション

顧客は、品目発注先計画で確認済供給を表示できます。このデータを使用して、有効在庫 (ATP) 数量を計算したり、構成確約可能在庫チェックを行ったりできます。

確認済供給タイプ

このトピックには、次の情報が含まれます。

- 確認済供給レコードの確認済供給タイプの説明
- LN が確認済供給タイプを決定する方法

ユーザが販売業者管理在庫 (VMI) を行う発注先の場合、LN は、確認済供給を使用して顧客に対する供給を計画できます。

顧客への確認済供給 (cpvmi0108m000) セッションの [確認済供給タイプ] フィールドで、確認済供給レコードのタイプを表示および修正できます。

許可される値

確認済供給レコードのタイプによって、その確認済供給の処理方法が決まります。

- [在庫]
タイプが[在庫]の供給は、すでに顧客のところに存在します。したがって、計画物流オーダーを生成して供給を納入する必要はありません。
- [即時]
タイプが[即時]の供給は、少なくとも合意された最小在庫レベルまで在庫レベルを増加するために使用されます。
この確認済供給の結果生成される計画物流オーダーは、ただちに実行レベルに転送できます。
- [発行予定]
計画物流オーダーが[発行予定]タイプの確認済供給にもとづいている場合、これらのオーダーの [オーダー発行] フィールドは [発行予定] に設定されます。この計画オーダーは、ただちに実行レベルまで転送できます。

- [計画]
計画物流オーダーが [計画] タイプの確認済供給にもとづいている場合、これらのオーダーの [オーダー発行] フィールドは [発行予定外] に設定されます。この計画オーダーは、後の計画実行またはマニュアルで [オーダー発行] フィールドが [発行予定] に変更されるまで、実行レベルに転送できません。
- [発行済]
確認済供給レコードの確認済供給タイプが [発行済] の場合、確認済供給はすでに実際オーダーによってカバーされています。この実際オーダーは、顧客の倉庫に対してスケジュール済の受取に対応します。

注意

計画物流オーダーを実行レベルに転送すると、この計画オーダーは、在庫処理タイプが [転送] の倉庫オーダーになります。理論上は、計画物流オーダーを販売オーダーに転送することもできますが、販売業者管理在庫 (VMI) を行う場合は役立ちません。

確認済供給タイプの決定方法

確認済供給タイプは、計画条件 (tctrm1135m000) セッションの [補充基準] フィールド、および計画オーダー (cprrp1100m000) セッションの [オーダー発行] フィールドに依存します。

計画方法 (VMI)

VMI 発注先が顧客に対する供給を計画する場合のオプションについて説明します。

販売業者管理在庫 (VMI) を行う発注先にとって特に役立つ内容ですが、一部の情報は顧客にも該当します。

利用可能な方法

計画方法を指定するには、条件ライン (tctrm1620m000) セッションの [計画] タブにある [計画基準] フィールドを使用します。

次の表は、利用可能な設定を示したものです。

[計画基準]	説明	詳細情報
[合計予測]	オーダー計画モジュールでは、供給を、顧客から受け取ったメッセージにもとづいて、合計予測を計画します。	予測にもとづく VMI 計画 (ページ 42)
[確認済予測]	[合計予測] と同様、ただしオーダー計画モジュールでは予測の確認済部分のみを考慮に入れます。	予測にもとづく VMI 計画 (ページ 42)
[確認済供給]	顧客に伝える確認済供給を決定します。確認済供給は合計予測または確認済予測をもとにすることができ、確認済供給はマニュアルで調整することもできます。LN では、確認済 - 供給データにもとづいて供給を計画します。	確認済供給にもとづく VMI 計画 (ページ 43)

[在庫レベル]	LNは、合意された <u>最小在庫レベル</u> 在庫レベルにもとづく VMI 計画にもとづいて供給を計画します (ページ 44)
---------	---

[マニュアル]	計画は行われません。
---------	------------

注意

[補充基準] フィールドの値によって、[計画基準] フィールドで利用可能な値が決まります。[計画基準] フィールドと [補充基準] フィールドの可能な組合せについては、補充方法 (VMI) (ページ 47) を参照してください。

予測にもとづく VMI 計画

VMI 発注先が顧客から受領した予測にもとづいて顧客に対する供給を計画する方法を説明します。さまざまな計画方法の概要については、計画方法 (VMI) (ページ 41) を参照してください。

一般的な計画手順

予測にもとづく VMI 計画の場合、一般的な計画手順は次のとおりです。

- 顧客から予測が送信されます。
- LN は予測の値を使用して顧客の倉庫を満たす計画オーダーを生成します。これらの計画オーダーのほとんどは計画物流オーダーです。直送の場合、LN は計画購買オーダーを生成します。この計画オーダーは、合計予測または確認済予測にもとづきます。

注意

この手順では、確認済供給を決定しません。

詳細については、確認済予測および未確認予測 (ページ 27) を参照してください。

パラメータ設定

この計画方法を指定するには、条件ライン (tctrm1620m000) セッションの [計画] タブで、適切な条件合意を定義します。

以下の設定を使用します。

[顧客からの予測受取]	=	[Yes]
[供給の確認]	=	[No]
[補充基準]	=	[合計予測]、[確認済予測]、 [在庫レベル]、または [マニュアル]
[計画基準]	=	[合計予測] OR [確認済予測]

注意

補充数量が計画数量を超えてはいけません。したがって、[補充基準] フィールドが [合計予測] の場合、[計画基準] フィールドを [確認済予測] に設定することはできません。

詳細については、補充方法 (VMI) (ページ 47) を参照してください。

確認済供給にもとづく VMI 計画

VMI 発注先が確認済供給にもとづいて顧客に対する供給を計画する方法を説明します。

さまざまな計画方法の概要については、計画方法 (VMI) (ページ 41) を参照してください。

一般的な計画手順

確認済供給にもとづく VMI 計画の場合、一般的な計画手順は次のとおりです。

1. 顧客は、発注先が供給計画を処理する品目の予測を発注先に送信します。
2. この予測にもとづいて、発注先は計画オーダーの形でこれらの品目に対する計画供給を生成します。
この計画オーダーは、合計予測または確認済予測にもとづきます。
3. 必要に応じて、発注先は計画オーダーを移動または調整して実行可能な計画を作成できます。
4. 発注先は、この計画供給および既存の供給オーダー (あれば) を確認済供給に変換します。
5. 必要に応じて修正した後、発注先は顧客に確認済供給を伝えます。
6. 発注先は、確認済供給の値を使用して計画オーダーを生成します。

注意

ステップ 1 ~ 4 をスキップして、マニュアルで確認済供給を定義できます。

ステップ 3 および 5 で、計画者は計画供給を調整できます。

パラメータ設定

この計画方法を指定するには、条件ライン (tctrm1620m000) セッションの [計画] タブで、適切な条件合意を定義します。

以下の設定を使用します。

[供給計画の責任者]	=	[Yes]
[顧客からの予測受取]	=	[Yes]
[供給の確認]	=	[Yes]
[確認済供給基準]	=	[合計予測] OR [確認済予測]
[補充基準]	=	[確認済供給]、[在庫レベル]、または [マニュアル]
[計画基準]	=	[確認済供給]

注意

[供給の確認] チェックボックスがオンの場合、[計画基準] フィールドの値は [確認済供給] に設定され、修正できません。

在庫レベルにもとづく VMI 計画

VMI 発注先が合意された最小在庫レベルにもとづいて顧客に対する供給を計画する方法を説明します。

さまざまな計画方法の概要については、計画方法 (VMI) (ページ 41) を参照してください。

一般的な計画手順

VMI 計画が合意された最小在庫レベルにもとづく場合、顧客に対して確認済供給メッセージは送信しません。計画処理および補充処理は、完全に顧客の倉庫の在庫レベルにもとづきます。在庫レベルが有効な最小在庫レベルを下回ると、発注先が顧客に供給します。オプションで、最大在庫レベルも考慮することができます。

在庫レベルの指定

次の方法を使用して在庫レベルを決定できます。

- 固定レベル (品目データで指定)
- 固定レベル (発注先と顧客との間で合意)

- 時系列レベル (発注先と顧客との間で合意)
- 時系列レベル (顧客が発注先に送信する予測にもとづく)

詳細については、最小在庫および最大在庫を指定するには (ページ 57)を参照してください。

パラメータ設定

この計画方法を指定するには、条件ライン (tctrm1620m000) セッションの [計画] タブで、適切な条件合意を定義します。

以下の設定を使用します。

[供給計画の責任者]	=	[Yes]
[顧客からの予測受取]	=	[Yes] または [No]
[最小/最大在庫レベルの使用]	=	[最小レベル]、[最大レベル]、 または [最小および最大レベル]
[供給の確認]	=	[No]
[補充基準]	=	[在庫レベル]
[計画基準]	=	[在庫レベル]

注意

[補充基準] フィールドを [在庫レベル] に設定すると、LN は [計画基準] フィールドを [在庫レベル] の固定値に設定します。

補充方法 (VMI)

VMI 発注先が顧客の在庫を補充する方法について説明します。補充計画は通常、発注先と顧客間で合意されます。

計画方法および補充方法

この説明では、計画および補充という用語を次のように定義します。

- 計画
計画は、顧客の所要にもとづいて顧客の倉庫を補充するための計画オーダーを生成する処理です。この処理によって、計画製造オーダー、計画購買オーダー、および計画物流オーダーが生成されます。これらは、発注先が顧客に供給を行う供給倉庫の在庫を構築するために使用されます。
- 補充
補充は、計画物流オーダーを実行レベルに転送し、顧客のサイトで実際に倉庫への品目納入を開始する処理です。直送の場合は、計画物流オーダーではなく計画購買オーダーを使用します。

計画と補充に対して同じ方法を選択すると、計画に続いてすぐに補充が行われます。すべての計画オーダーは、遅延なく実行レベルに転送されて実行されます。

重要

計画と補充に対して異なる方法を使用すると、一部の計画オーダーはすぐには転送および実行されません。この設定を使用して、計画方法にしたがって自分のサイトに在庫を構築し、補充方法にしたがって後から品目を出荷できます。

利用可能な方法

補充方法を指定するには、条件ライン (tctrm1620m000) セッションの [計画] タブにある [補充基準] フィールドを使用します。

次の表は、利用可能な設定を示したものです。

[補充基準]	説明	詳細情報
--------	----	------

[合計予測]	LN は、顧客から受領したメッセージに含まれる合計予測にもとづいて補充を行います。
[確認済予測]	[合計予測] と似ていますが、LN は確認済予測だけを考慮します。
[確認済供給]	顧客に伝える確認済供給を決定します。確認済供給は合計予測または確認済予測にもとづいて決定できます。また確認済供給をマニュアルで調整することもできます。LN は、確認済供給データにもとづいて補充を行います。
[在庫レベル]	LN は、合意された最小在庫レベルにもとづいて補充を行います。最小在庫にもとづく補充 (ページ 51)
[マニュアル]	LN は、どの計画オーダーも転送しません。納入は、計画オーダーとは関係なく、マニュアルで行います。後の計画実行で実際納入を考慮する場合、既存の計画オーダーは再び生成されません。最小在庫および最大在庫を指定するには (ページ 57)

計画方法と補充方法の可能な組合せ

この計画方法を指定するには、条件ライン (tctrm1620m000) セッションの [計画] タブで、適切な条件合意を定義します。

注意

[計画基準] フィールドを入力する前に、[補充基準] フィールドを入力する必要があります。

次の表は、計画方法と補充方法の許可されるすべての組合せを表しています。

		[補充基準]				
		[合計予測]	[確認済予測]	[確認済供給]	[在庫レベル]	[マニュアル]
[計画基準]	[合計予測]	A	B	-	D	E
	[確認済予測]	-	A	-	D	E
	[確認済供給]	-	-	A/C	D	E

[在庫レベル]	-	-	-	A/D	-
[マニュアル]	-	-	-	-	F

用例:

A	=	[計画基準] フィールドには、[補充基準] フィールドと同じ値が入ります。計画に続いてすぐに補充が行われます。すべての計画オーダは実行レベルに転送され、遅延なく実行されます。
B	=	合計予測にもとづいて計画し、確認済予測にもとづいて補充する場合 (ページ 50)
C	=	確認済供給にもとづく VMI 計画および補充。詳細については、確認済供給にもとづく VMI 計画 (ページ 43) を参照してください。
D	=	計画オーダの実行は、最後の瞬間まで遅延されます。詳細については、最小在庫にもとづく補充 (ページ 51) を参照してください。
E	=	マニュアル補充 (ページ 51)
F	=	計画なし
-	=	許可されない組合せ

計画方法と補充方法が異なる場合

計画と補充に対して異なる方法を使用する場合、計画オーダは 2 つのグループに分割されます。

- [オーダ発行] = [発行予定]
LN で、これらの計画オーダをただちに実行レベルに転送できます。
- [オーダ発行] = [発行予定外]
ただちに補充する必要のない計画オーダ。LN では、これらの計画オーダを実行レベルに転送できません。状況が変わると、後の計画実行によってこれらの計画オーダが [発行予定] の計画オーダに置換されます。

緊急の場合は、マニュアルで [オーダー発行] フィールドを [発行予定外] から [発行予定] に変更できます。

計画品目の [オーダー発行] フィールドの値を表示するには、計画オーダー (cprp1100m000) セッションを使用します。

合計予測にもとづいて計画し、確認済予測にもとづいて補充する場合

VMI 発注先が、顧客から受領した合計予測にもとづいて供給を計画し、確認済予測にもとづいて顧客の倉庫を補充する方法を説明します。

サービスが中断しないように十分な在庫を構築しつつ、不要な供給を行わないようにするには、発注先は、合計予測にもとづいて計画処理を行い、確認済予測にもとづいて補充を行うことができます。

発注先がこの方法を使用する場合、計画オーダーのうち未確認予測を満たす部分は、すぐには転送および実行されません。

合計予測と確認済予測の違いについての詳細は、確認済予測および未確認予測 (ページ 27)を参照してください。

パラメータ設定

この計画方法を指定するには、条件ライン (tctrm1620m000) セッションの [計画] タブで、適切な条件合意を定義します。

以下の設定を使用します。

[供給計画の責任 = 者]	[Yes]
[顧客からの予測 = 受取]	[Yes]
[供給の確認] =	[No]
[補充基準] =	[確認済予測]
[計画基準] =	[合計予測]

計画オーダーのうち、未確認予測を満たす部分は、すぐには転送および実行されません。詳細については、計画方法と補充方法が異なる場合を参照してください。

最小在庫にもとづく補充

顧客の在庫レベルが常に十分であるようにするため、VMI 発注先は、顧客のサイトの最小在庫レベルにもとづいて補充することができます。この補充方法は、さまざまな計画方法と組み合わせて使用できます。

パラメータ設定

この補充方法を指定するには、条件ライン (tctrm1620m000) セッションの [計画] タブで、適切な条件合意を定義します。

以下の設定を使用します。

[供給計画の責任者]	=	[Yes]
[顧客からの予測受取]	=	[Yes] または [No]
[最小/最大在庫レベルの使用]	=	[最小レベル] または [最小および最大レベル]
[補充基準]	=	[在庫レベル]
[計画基準]	=	[合計予測]、[確認済予測]、 [確認済供給]、または [在庫レベル]

詳細については、最小在庫および最大在庫を指定するには (ページ 57)を参照してください。

[計画基準] フィールドおよび [補充基準] フィールドの値がともに [在庫レベル] の場合、計画に続いてすぐに補充が行われます。すべての計画オーダーは実行レベルに転送され、遅延なく実行されます。詳細については、在庫レベルにもとづく VMI 計画 (ページ 44)を参照してください。

[計画基準] フィールドおよび [補充基準] フィールドの値が異なる場合、計画オーダーの一部は実行レベルに転送されません。詳細については、計画方法と補充方法が異なる場合を参照してください。

マニュアル補充

補充をマニュアルで処理する場合、顧客サイトで在庫が物理的に補充されるときに供給オーダーを入力します。LN でこれらのオーダーを生成する必要はありません。このような場合に LN を設定する方法を説明します。

発注先の代表者によって、どの品目を、いつ、どれだけの数量補充すべきかが決定されたら、マニュアル補充方法を選択する必要があります。

パラメータ設定

この補充方法を指定するには、条件ライン (tctrm1620m000) セッションの [計画] タブで、適切な条件合意を定義します。

以下の設定を使用します。

[供給計画の責任者]	=	[Yes]
[補充基準]	=	[マニュアル]
[計画基準]	=	(任意の値を使用できます。)

[補充基準] フィールドが [マニュアル] の場合、LN は、計画オーダを生成できますが、これらの計画オーダは実行レベルに転送されません。これらの計画オーダは、依存需要を生成し、発注先サイトで品目の在庫を作成するために使用されるだけです。詳細については、計画方法と補充方法が異なる場合を参照してください。

条件ラインの有効期間中に品目のすべての計画機能をオフにするには、[計画基準] フィールドおよび [補充基準] フィールドをともに [マニュアル] に設定します。

最小在庫および最大在庫を実行するには

このトピックでは、販売業者管理在庫 (VMI) の設定で、顧客が在庫する必要のある最小および最大在庫レベルにもとづいて、発注先が供給計画および補充を実行する方法を記述します。

対応するパラメータ

条件ライン (tctrm1620m000) セッションの [計画] タブの、以下のフィールドで、この方法の適用法を決定します。

- [最小/最大在庫レベルの使用]
- [最小/最大仕様]
- [タイムフェーズ在庫レベル]
- [棚卸単位]
- [最小在庫レベル]
- [最大在庫レベル]

最小レベル、最大レベル、または両方

この方法を使用して顧客に供給を計画するには、[最小/最大在庫レベルの使用] フィールドを [最小レベル]、[最大レベル]、または [最小および最大レベル] に設定します。

[最小/最大在庫レベルの使用] フィールドを [最大レベル] に設定する場合、別の方法を使用して供給を計画する必要があります。

条件合意が最大レベルを指定している場合、顧客は、各予測期間の予測をこの最大レベルに制限します。顧客の在庫が最大在庫レベルを超えている場合、LN は、顧客と VMI 発注先に対してシグナルを生成します。

在庫レベルを指定する方法

必要な在庫レベルを以下のように定義できます。

- 固定在庫レベル
- 時系列在庫レベル
- 供給日数にもとづく在庫レベル

詳細は、最小在庫および最大在庫を指定するには (ページ 57) を参照してください。

日数にもとづく供給計画

このトピックでは、販売業者管理在庫 (VMI) の設定で、顧客が在庫すべき供給の日数にもとづいて、発注先が供給計画を実行する方法を記述します。

計画方法の目標

この計画方法は、最小在庫および最大在庫を実行するには (ページ 53) 計画方法のバリエーションです。

この計画方法の目標は、顧客の在庫を十分なレベルに維持して、一時的に供給の問題が発生したときに、顧客の作業の続行を守ることです。在庫レベルは次の状態である必要があります。すべての供給が突然停止した場合、顧客が在庫を切らすまで特定の日数、顧客には作業を続行できるだけの十分な在庫があります。

一方、この方法により在庫が廃止となるリスクが減ります。納入数量が必要数を上回ることがないからです。

対応するパラメータ

条件ライン (tctrm1620m000) セッションの [計画] タブの、以下のフィールドで、この方法の適用法を決定します。

- [最小/最大在庫レベルの使用]
- [最小/最大仕様]
- [最小/最大日数]
- [最小係数]
- [最大係数]

このトピックで記述されている計画方法を使用するには、[最小/最大仕様] フィールドを [日数] に設定します。

注意

[最小/最大仕様] フィールドを to [日数] に設定すると、[供給の確認] チェックボックスまたは [確認済供給の使用] チェックボックスをオンにできなくなり、[補充基準] フィールドは [在庫レベル] の固定値に自動で設定されます。

最小レベル、最大レベル、または両方

この方法を使用して顧客に供給を計画するには、[最小/最大在庫レベルの使用] フィールドを [最小レベル]、[最大レベル]、または [最小および最大レベル] に設定します。

最小係数および最大係数

この計画方法では、在庫が増減できる下限と上限を決定できます。

例

以下のパラメータ設定したとします。

- [最小/最大日数] = 10 日
- [最小/最大在庫レベルの使用] = [最小および最大レベル]
- [最小係数] = 0.9
- [最大係数] = 1.5

この計画方法では、顧客の在庫を少なくとも 9 日間 (0.9×10)、および、およそ 15 日間 (1.5×10)、十分な在庫を維持することを目的としています。

計算

顧客が予測の改訂を承認した場合、その改訂に対して最大および最小レベルは凍結されています。

各予測期間について、LN は以下のステップを実行します。

1. LN は [最小/最大日数] フィールドの値を当該の予測期間の開始日に加算します。この加算により範囲日が得られます。
2. LN は、指定された予測期間の開始日と範囲日間の、各予測期間ごとに予測の合計を計算します。
範囲日が予測期間中に含まれる場合、LN は、その予測期間の予測の比例部分を使用します。
予測期間の開始日のみが記録されます。予測期間の終了日は、次の予測期間の開始日から算出されます。したがって、最大予測期間の長さは指定されません。この計算の目的のために、LN は最大予測期間の長さを、前の予測期間と同じとみなします。
3. 関連する予測期間に対する有効最小在庫は、予測値に [最小係数] 値を乗じて計算した合計です。
4. 関連する予測期間に対する有効最大在庫は、予測値に [最大係数] 値を乗じて計算した合計です。

注意

日数は稼働日単位ではなく、カレンダー日単位で表します。この計算では作業カレンダーは考慮に入れません。したがって、手順では、作業不可能な日の最小および最大在庫レベルも計算します。

例

この例では、以下の値が適用されます。

パラメータ	値
[最小/最大日数]	10 日
[最小/最大在庫レベルの使用]	[最小および最大レベル]
[最小係数]	0.9
[最大係数]	1.5

以下のテーブルは、各予測期間での予測を示しています。

予測期間	期間開始日	予測需要
22	4 月 2 日	150
23	4 月 9 日	49
24	4 月 16 日	84
25	4 月 23 日	35

以下のテーブルは、最小および最大在庫の計算のプロセスを示しています。

期間	1 期間は10日間		予測合計	在庫レベル	
	初日	最終日		[最小在庫]	[最大在庫]
22	4 月 2 日	4 月 11 日	$150 + (3 \div 7) \times 49 = 171$	$153.9 (=171 \times 0.9)$	$256.5 (=171 \times 1.5)$
23	4 月 9 日	4 月 18 日	$49 + (3 \div 7) \times 84 = 85$	76.5	127.5
24	4 月 16 日	4 月 25 日	$84 + (3 \div 7) \times 35 = 99$	89.1	148.5

最小在庫および最大在庫を指定するには

販売業者管理在庫 (VMI) の発注者が、顧客が在庫に持つ最小/最大在庫レベルにもとづいて供給計画を実行する方法を説明します。

品目の在庫バッファと最大在庫レベル

有効な条件合意で最小在庫が定められている場合、LN は、顧客の倉庫に対して設定されている品目の在庫バッファを無視します。

有効な条件合意で最大在庫が定められている場合、LN は、顧客の倉庫に対して設定されている品目の最大在庫レベルを無視します。

条件で特定日付の最小在庫が定められていない場合、LN は、品目の在庫バッファを適用します。同様に、条件で特定日付の最大在庫が定められていない場合、LN は品目の最大在庫レベルを適用します。

品目の在庫バッファおよび最大在庫レベルは、品目 - オーダ処理 (tcibd2100m000) セッションまたは倉庫別品目データ (whwmd2510m000) セッションで定義できます。

在庫レベルを指定する方法

必要な在庫レベルを以下のように定義できます。

- 固定在庫レベル
- 時系列在庫レベル
- 供給日数にもとづく在庫レベル

この後説明するフィールドは、条件ライン (tctrm1620m000) セッションの [計画] タブにあります。

固定在庫レベルの定義方法

最小在庫または最大在庫の固定レベルを定義する方法は次のとおりです。

1. [最小/最大仕様] フィールドを [数量別] に設定します。
2. [最小在庫レベル] フィールドおよび [最大在庫レベル] フィールドに、必要な在庫レベルを入力します。

時系列在庫レベルの定義方法

最小在庫または最大在庫の時系列レベルを定義する方法は次のとおりです。

1. [最小/最大仕様] フィールドを [数量別] に設定します。
2. 計画在庫レベル (tctrm1136m000) セッションで必要な在庫レベルを入力します。
計画在庫レベル (tctrm1136m000) セッションを開始するには、条件ライン (tctrm1620m000) セッションで [計画] タブを開き、適切なメニューの [在庫レベル] をクリックします。

供給日数の定義方法

供給日数を定義することによって最大/最小在庫レベルを指定する方法については、日数にもとづく供給計画 (ページ 54)を参照してください。

注意

顧客が予測の改訂を承認した場合、その改訂に対して最大および最小レベルは凍結されています。

適切なメニュー

コマンドは、[表示]、[参照]、および [アクション] メニューに分散されているか、ボタンとして表示されます。旧リリースの LN および Web UI では、これらのコマンドは [特定] メニューに配置されます。

発効日

そのレコードまたは設定が有効となる最初の日。通常、発効日には発効時刻も指定されます。

有効在庫

ある品目の、ある日付に顧客に確約できる数量

LN では、有効在庫 (ATP) は、確約可能在庫 (CTP) と呼ばれる、より高度なオーダ確約技術の構成要素となっています。確約可能在庫は、品目の有効在庫が不十分な場合に当初計画より増産する可能性も考慮する点で、有効在庫より高度な機能を備えています。

標準的な有効在庫機能のほかに、チャンネル有効在庫も使用されます。この用語は、特定の販売チャンネルについて販売制約を考慮した、そのチャンネルについての品目の調達可能性を指しています。

LN で使用されるこれ以外のすべてのタイプのオーダ確約機能については、確約可能在庫という用語を使用します。

頭字語: 有効在庫

略字: 有効在庫

有効在庫

次を参照してください: 有効在庫 (ページ 59)

有効在庫

次を参照してください: 有効在庫 (ページ 59)

クラスタ

企業計画で、供給関係により互いに接続されている倉庫の分類

クラスタは、1つまたは複数の倉庫を含む、地理的な場所を表します。企業計画では、これらの倉庫を、計画目的で 1 つの単位とみなします。

クラスタ

1 つの財務会社またはロジスティック会社に必ずしも関連しないエンティティのグループ

企業計画では、クラスタは、供給関係によって接続された倉庫のグループに使用されます。

構成確約可能在庫チェック

指定日に顧客オーダーを納入するための、品目の増産に必要な構成要素の調達可能性のチェック

該当する構成要素の確約可能在庫パラメータに基づいて、構成要素品目自体に対して実行されるチェック

オーダー範囲に応じて、クリティカル部品表の構成要素または部品表に対して、構成確約可能在庫チェックが行われます。確約可能在庫のクリティカルとして定義された構成要素のみがチェックされます。

需要予測

計画期間において需要が予測される品目数量。需要予測は、季節パターンや履歴需要データをもとに生成できます。

需要予測は、計画品目またはチャネルの需要計画の一部です。

依存需要

他の品目の需要に関連した需要

依存需要には基本的に次の 2 つのタイプがあります。

- ある品目の製造に使用する構成品目に対する需要
- 別の保管場所または関連サイトから発生した需要

マスタ計画では、依存需要は次のフィールドの合計と等しくなります。

- 依存資材需要
- 依存スケジュール需要
- 依存物流需要

主品目の有効在庫と依存需要が、主品目のクリティカル部品表に指定した倉庫と同じクラスタをもつ計画品目に展開されます。

実行レベル

企業計画では、以下のような、LN パッケージによるオーダーの実行および実際の商品フローを管理するための指示

- 製造
- オーダ管理
- 倉庫管理

企業計画は、計画アルゴリズムを使用してシミュレーションおよび最適化を実行します。他のパッケージは、オーダーの実行と商品フローを管理します。

独立需要

他の品目の需要と関連しない需要

独立需要の例:

- 最終商品の需要
- 破壊試験に必要な構成品目の需要
- サービス部品所要量

品目マスタ計画

販売、内部供給、外部供給、および在庫に対するロジスティックターゲットと計画データを含む、品目別の総合ロジスティック計画。品目マスタ計画のすべての計画データは、計画期間で指定します。企業計画は、このデータを使用してマスタ計画シミュレーションを実行します。

品目マスタ計画は、次のサブ計画に分類することができます。

- 需要計画
- 供給計画
- 在庫計画

さらに、品目マスタ計画には、実際の需要、実際の供給、計画オーダーという形での計画供給、および予測在庫に関する情報が含まれます。

その品目にマスタ計画があり、チャンネルが定義されている場合、通常は各チャンネルに固有のマスタ計画があります。チャンネルマスタ計画には、需要データ、販売制約に関する情報といった、チャンネル固有の情報のみが含まれます。

品目マスタ計画とチャンネルマスタ計画は、シナリオ内で定義されています。これらのシナリオは、条件分析 (what-if 分析) に使用できます。シナリオのうちの 1 つが実際の計画です。

複数会社物流オーダー

2 つの独立したロジスティック会社に関係する物流オーダー

ユーザは、複数会社計画物流を購買オーダーまたは倉庫移動のどちらに転送しなければならないのかを判断できます。そのために、ユーザは、特定の会社関係のオーダータイプを定義する必要があります。

非クラスタ化品目

特定の倉庫クラスタを参照せずに計画される、企業計画の計画品目

非クラスタ化品目の品目コード内では、クラスタセグメントは空白です。

非クラスタ化品目と同じ品目基準セグメントをもつクラスタ化品目が存在する場合、それらの品目は物理的には同じですが、在庫データは異なります (たとえば、手持数量)。非クラスタ化品目の在庫データには、特定のクラスタに関連する数量は含まれません。クラスタ化品目を使用して、サイト内またはサイト間の物流計画モデルを作成することができます。

LN をクラスタセグメントなしでインストールした場合、計画品目はすべて非クラスタ化品目になります。

オーダー基準計画

計画データをオーダーの形式で取り扱う計画方式

オーダー計画では、供給は計画オーダーの形で計画されます。個々の計画オーダーの開始日と終了日が考慮されます。製造計画では、この方法により、品目のBOMおよび工順に記録されたすべての資材所要量と能力所要量が考慮されます。

注意

企業計画では、すべての供給をオーダー計画で計画した場合でも、品目のマスタ計画をメンテナンスすることができます。

計画物流オーダー

内部発注先または姉妹会社が品目の数量を納入する企業計画でのオーダー

計画オーダー

企業計画の供給オーダーの 1 つ。計画目的で作成され、まだ実際のオーダーにはなっていないものです。

企業計画は、以下のタイプの計画オーダーを扱います。

- 計画製造オーダー
- 計画購買オーダー
- 計画物流オーダー

計画オーダーは、特定のシナリオを使用して生成されます。実際のシナリオの計画オーダーは、実行レベルに転送すると、実際の供給オーダーにすることができます。

計画製造オーダー

ある品目の特定数量を製造するための、企業計画の計画オーダー

計画購買オーダー

ある品目の特定数量を発注先 (購買元取引先) から購買するための、企業計画の計画オーダー

計画範囲

ある品目について計画データがメンテナンスされる時間周期

計画範囲は、シミュレーションを実行した日からの作業日数として表されます。

企業計画は、品目の計画範囲を超えて供給計画や計画オーダーを再生成することはありません。

企業計画は、計画範囲を計算するために、計画品目が属しているデフォルト倉庫の企業単位に指定したカレンダーを使用します。

注意

企業計画は、計画範囲を計画期間の終わりまで移動します。

例外メッセージ

特定の計画パラメータ、値、計画での好ましくない結果またはコンフリクトを回避するための制約を変更または訂正することをユーザに提案するために生成される短い標準化メッセージ

供給関係

供給倉庫クラスタと受取クラスタの間の物流のリンク。該当するクラスタは、同じサイト内にあっても別のサイトにあってもかまいません。

企業計画は、供給関係を使用して物流計画を作成します。供給関係は、特定の品目または品目グループの有効な供給パスを表します。供給関係は、個々の品目レベルでも、より一般的なレベルでも、指定できます。

また、供給関係によって、供給原価、ロットサイズ規則、および他のパラメータも決定されます。

予測

その品目を購入する顧客によって計算され、合意された条件に従って予測期間に総計される、品目に対する需要

顧客は、品目の供給を計画する発注先に予測を送信します。

改訂

顧客と発注先との間で需要データおよび供給データを通知するメッセージにリンクされている改訂

取引先は、需要データおよび供給データと一緒に、複数のメッセージの改訂バージョンを送信できます。各改訂バージョンには、1 ずつ増える改訂番号が付けられます。

顧客が改訂番号を生成します。発注先は、同じ改訂を使用して、顧客に対して対応メッセージをマーク付けます。

確認済予測

顧客が確実に消費することを予想している合計予測の一部

顧客は、供給を計画している発注先に期間ごとに予測を送信する場合、確認済予測と未確認予測を区別できます。

一般的に、構成要素の確認済予測は、完成品の実際販売オーダーおよび販売スケジュールから派生します。ユーザは、さまざまな方法で、確認済予測にする予測の量を決定できます。

未確認予測も参照してください。

未確認予測

顧客が確認済予測に加えて供給を希望する合計予測の部分。顧客はこの数量が必要になるかどうか確実にはわかりません。

確認済予測と未確認予測の合計が、合計予測です。

一般的に、合計予測には、顧客の完成品についての実際販売オーダーに基づく需要だけでなく、顧客の完成品の今後の見積販売に基づく予測需要も含まれます。

確認済予測も参照してください。

確認済供給

発注先が確認した品目の数量は、計画納期に顧客に納入されます。

注意

確認済供給は、顧客が要求した数量より少なくてもかまいません。

補充計画

品目の納入の日付、回数、数量のスケジュール

発注先は、補充計画を作成して、それを顧客に送信します。

予測期間

複数のオーダーにより発生した予測を顧客が総計する期間

予測期間は、条件に基づきます。

品目発注先計画

特定の発注先に関連した品目の需要および供給の時系列で見た概要

販売業者管理在庫に関する操作をするための品目発注先計画が提供されます。品目発注先計画は、発注先に送信した予測や、発注先が送り返してきた確認済供給情報などのデータを表示します。

品目発注先計画を品目オーダー計画と比較できます。違いは、品目オーダー計画がすべての発注先および顧客からの需要および供給を表示するのに対し、品目発注先計画は特定の発注先の需要および供給を表示する点です。

VMI 発注先

顧客の特定の品目について、在庫管理と、オプションで供給計画を扱う発注先 (購買元取引先)。この用語は、販売業者管理在庫 (VMI) の設定で使用されます。

条件合意で、特定の発注先を品目の VMI 発注先として指定できます。

品目顧客計画

特定の顧客に関連した品目の需要および供給の時系列で見た概要

販売業者管理在庫に関する操作をするための品目顧客計画が提供されます。品目顧客計画は、顧客から送信された予測や、顧客に送信した確認済供給情報などのデータを表示します。

品目顧客計画を品目オーダー計画と比較できます。違いは、品目オーダー計画がすべての発注先または顧客からの需要および供給を表示するのに対し、品目顧客計画は特定の顧客の需要および供給を表示する点です。

倉庫

商品を収容する場所。各倉庫に対して、住所データおよびそのタイプに関するデータを入力できます。

計画品目

オーダーシステムが [計画] の品目

これらの品目の製造、物流、または購買は、需要予測または实际需要に基づいて企業計画で計画されます。

次の方法によって、品目を計画できます。

- マスタ準拠計画。基準生産計画手法と同じです。
- オーダ準拠計画。資材所要量計画手法と同じです。
- マスタ準拠計画とオーダー準拠計画の組合せ

計画品目は次のいずれかです。

- 実際の製造品目または購買品目
- 製品ファミリ
- 基本モデル (一般品目の定義済製品バリエーション)

類似の計画品目またはファミリのグループは製品ファミリと呼ばれます。個々の品目に対する計画よりも汎用的な計画にするために、品目が統合されます。品目コードのクラスタセグメントによって表示されるコードで、計画品目が配分計画に使用されるクラスタ品目であることが示されます。

購買オーダー

特定の条件に基づいて、どの品目が購買元取引先から納入されるかを示す契約

購買オーダーには次のものが含まれます。

- 一般的なオーダーデータ、購買元取引先データ、支払条件、および受渡条件を記載したヘッダ
- 実際に納入される品目についての詳しい情報を記載した、1つまたは複数のオーダーライン

倉庫オーダ

倉庫内の商品进行处理するオーダ

倉庫オーダは次のいずれかの在庫処理タイプになります。

- [入庫]
- [出庫]
- [転送]
- [仕掛品振替]

オーダには、それぞれ発生元があります。また、倉庫処理に必要なすべての情報が含まれています。品目 (ロット品目または非ロット品目) および倉庫 (保管場所の有または無) に応じて、ロットや保管場所を割り当てることができます。オーダは、事前定義された倉庫手順に従います。

注意

製造では、倉庫オーダを Warehousing Order、または Warehouse Order といいます。

同義語: 倉庫オーダ

倉庫オーダ

次を参照してください: 倉庫オーダ (ページ 66)

発注先

次を参照してください: 購買元取引先 (ページ 68)

販売業者管理在庫 (VMI)

発注先がそれぞれの顧客や外注先の在庫を管理する際に通常従う在庫管理方法です。また、発注先は供給計画も管理している場合があります。他にも、在庫は顧客が管理し、供給計画は発注先が担当している場合もあります。在庫管理や在庫計画は、ロジスティックサービスプロバイダ (LSP) に外注することもできます。

発注先が納入する在庫は、発注先、または顧客が所有します。多くの場合、在庫の所有権は顧客が在庫を消費する際に発注先から顧客に変更されますが、契約で規定されている時期に所有権の移行が生じることもあります。

販売業者管理在庫は、計画や資材の調達に関連する内部コストを削減できるほか、販売業者はサプライチェーンを明確に把握しながらそれぞれの在庫をよりよく管理できます。

有効化構成

有効化構成品目に関する差異の有効性を有効化コードによって制御する方法

有効化構成により、次のエンティティに対する変更をモデル化できます。

- 部品表の設計
- 部品表の製造
- 工順
- 工順作業
- 発注先の選択
- 外注方法

有効化コード

有効化構成品目に関する差異をモデル化するために使用する、販売オーダーラインやプロジェクト成果物ラインなどの参照番号

品目

購買、保管、製造、販売などができる原材料、部分組立品、完成品、および工具

品目は、1つのキットとして処理される一連の品目を表すことも、複数の製品バリエーションに存在することもできます。

非物理的な品目、つまり、在庫には保持されないが、原価を転記したりサービス料金を顧客に請求したりするために使用できる品目も定義できます。非物理的な品目の例は次のとおりです。

- 原価品目 (電気代など)
- サービス品目
- 外注サービス
- リスト品目 (メニュー/オプション)

販売オーダー

特定の条件にしたがって取引先に品目またはサービスを販売するために使用される合意。販売オーダーは、1つのヘッダおよび1つ以上のオーダーラインから成ります。

取引先データ、支払条件、受渡条件などの一般オーダーデータは、ヘッダに保存されます。価格合意や納期など、発注される実際の品目についてのデータは、オーダーラインに入力されます。

在庫レベル

倉庫で利用可能な在庫数量。VMI や外注シナリオの場合、倉庫供給は発注先と顧客間の契約で規定されている在庫レベルを基準にできます。

販売契約

販売契約は、商品の納入について、販売先取引先との合意を登録するために使用します。

契約は次の要素で構成されます。

- 一般取引先データが記載され、オプションで条件合意が記載された販売契約ヘッダ
- 品目または価格グループに適用される価格/値引合意および数量情報を持つ、1つまたは複数の販売契約ライン

直送

販売元が商品を購入元取引先からオーダする処理。購買元取引先はまた、商品を販売先取引先に直接納入しなくてはなりません。販売オーダまたはサービスオーダにリンクされた購買オーダを使用して、購買元取引先は商品を販売先取引先に直接納入します。商品は自社の倉庫から納入されないの、倉庫管理は関係しません。

販売業者管理在庫 (VMI) のセットアップでは、顧客倉庫の購買オーダを作成することで直送が達成されます。

販売元は次の理由で直送を決定できます。

- 利用可能在庫の不足
- オーダ数量が時間内に納入できない
- オーダ数量を自社で輸送できない
- 原価および時間が保存される

製造オーダ

指定された納期で指定された数量の品目を製造するオーダ

購買契約

購買契約を使用して、特定商品の納入に関する購買元取引先との特定合意を登録します。

契約は次のもので構成されます。

- 一般取引先データが記載され、オプションで関連条件合意が記載された購買契約ヘッダ
- (集中) 価格合意、ロジスティック合意条件、および数量情報が含まれる 1つ以上の購買契約ライン。品目または価格グループに適用されます。
- ロジスティック合意条件および数量情報が含まれる購買契約ライン詳細。マルチサイト法人の特定サイト(倉庫)の品目または価格グループに適用されます。この契約ライン詳細があるのは、法人購買契約の場合だけです。

購買元取引先

商品またはサービスのオーダ先の取引先。これは通常発注先の販売部署になります。この定義には、デフォルト価格と値引合意、購買オーダのデフォルト、受渡条件、関連する出荷元と請求元の取引先が含まれます。

同義語: 発注先

販売先取引先

企業が扱う商品またはサービスに対してオーダーを出す取引先、企業がメンテナンスを請け負う設備機器の所有者、または企業が実行するプロジェクトの受益者。一般的には顧客の購買部署

販売先取引先との契約には次のような事柄が含まれます。

- 別途取り決めない限り適用される、価格と値引についての合意内容
- 別途取り決めない限り適用される、販売オーダーについての合意内容
- 受渡条件
- 関連する出荷先取引先および請求先取引先

有効期限

そのレコードまたは設定が無効になる日付。通常、有効期限には失効時間も指定されます。

品目コード

品目 (製品、構成要素または部品) の識別コード。品目コードは、複数のフィールドまたはセグメントで構成されています。

品目グループ

類似の特徴を持った品目グループ。各品目は特定の品目グループに属しています。品目グループは品目タイプと組み合わせて使用し、品目デフォルトを設定します。

最大在庫レベル

倉庫で利用可能な最大在庫数量

最小在庫レベル

倉庫で利用可能でなければならない最小在庫数量

製品タイプ

ソート基準および選択基準として使用される、ユーザ定義可能な品目グループデータ。製品タイプは、製造を目的に同類の特徴で品目を分類することを意図しています。

セグメント化

品目コードを異なる論理部分 (セグメント) に分割すること

これらのセグメントは、セッションでは別々のフィールドとして表示されます。セグメントには次のようなものがあります。

- プロジェクトセグメント
- クラスタセグメント
- 品目識別番号

出荷先取引先

オーダ商品の出荷先取引先。通常、これは顧客の物流センタまたは倉庫を表します。この定義には、商品の出荷元となるデフォルト倉庫、運送業者および関連の販売先取引先が含まれます。

同義語: 出荷先顧客

出荷先顧客

次を参照してください: 出荷先取引先 (ページ 70)

条件合意

商品の販売、購買、転送に関する取引先との契約であり、オーダ、スケジュール、計画、ロジスティック、請求、需要ペギングについて詳細な条件を定義し、正しい条件を取得するための検索メカニズムを定義できます。

契約には次が含まれます。

- 合意タイプと取引先が記載されたヘッダ
- 検索優先順位、選択した検索属性 (フィールド) とリンクしている条件グループから構成される検索レベル
- 検索レベルの検索属性値が示される 1 つまたは複数のライン
- ラインのオーダ、スケジュール、計画、ロジスティック、請求、需要ペギングについて詳細な条件が示される条件グループ

条件グループ

条件ラインのオーダ、スケジュール、計画、ロジスティック、請求、需要ペギングについて詳細な条件が示されるグループ

条件ライン

検索条件検索レベルの検索属性の値を保持します。このため、条件ラインにより、条件グループに格納されている詳細な条件が適用されるフィールドが指定されます。

条件検索属性

検索条件検索レベルで選択され、条件ラインで指定、検索される要素 (フィールド)

在庫バッファ

需要と納入リードタイムの変動に対応するために必要なバッファ在庫。一般に、在庫バッファは需要や供給の変動に対応するために在庫として確保しておく計画済の在庫数量です。基準生産日計画では、在庫バッファは予測エラーやバックログの短期的な変更に対応するために計画された追加の在庫および能力です。

有効期間

発効日と有効期限で定義される、レコードが有効となる期間

凍結日数 (-)

現在の日付から計算される日数で、この期間、必要な品目の数量を削減できなくなります。

凍結日数 (+)

現在の日付から計算される日数で、この期間、必要な品目の数量を増加できなくなります。

計画者

品目の製造、購買、および分配の計画を担当する従業員または部署。計画者は、在庫レベル、資材の利用可能性、およびリソースの能力を考慮して、生成される再スケジュールメッセージなどのシグナルに対応します。

倉庫移動

倉庫間で品目を移動させるための倉庫オーダー。

倉庫移動には、在庫処理タイプが [転送] の倉庫オーダーが必要となります。

ビジネスオブジェクト文書 (BOD)

企業または企業アプリケーション間でデータの交換に使用する XML メッセージ。BOD はメッセージの内容を識別する名詞、および文書で実行するアクションを識別する動詞で構成されています。名詞と動詞の一意の組合せによって、BOD の名前が形成されます。たとえば、名詞「ReceiveDelivery」と動詞「Sync」の組合せは、「BOD SyncReceiveDelivery」になります。

在庫処理タイプ

在庫移動のタイプを表すために使用する分類

次の在庫処理タイプがあります。

- [出庫]
倉庫から倉庫以外のエンティティに移動
- [入庫]
倉庫以外のエンティティから倉庫に移動
- [転送]
ある倉庫から別の倉庫に移動
- [仕掛品振替]
ある原価計算ワークセンタから別の原価計算ワークセンタに移動

索引

- 適切なメニュー, 59
 - 補充
 - VMI, 47, 51
 - 発効日, 59
 - 有効在庫, 59
 - クラスタ, 59, 60
 - 構成確約可能在庫チェック, 60
 - 需要予測, 60
 - 依存需要, 60
 - 実行レベル, 60
 - 独立需要, 61
 - 品目マスタ計画, 61
 - 複数会社物流オーダー, 61
 - 非クラスタ化品目, 61
 - オーダー基準計画, 62
 - 計画物流オーダー, 62
 - 計画オーダー, 62
 - 計画製造オーダー, 62
 - 計画購買オーダー, 62
 - 計画範囲, 62
 - 例外メッセージ, 63
 - 供給計画
 - vmi, 18
 - 発注先別, 23
 - 供給関係, 63
 - 予測, 25, 63
 - 改訂, 63
 - 確認済予測, 27, 29, 31, 63
 - 未確認予測, 27, 29, 31, 64
 - 確認済供給, 37, 64
 - 確認済供給タイプ, 38
 - 補充計画, 64
 - 予測期間, 64
 - 品目発注先計画, 64
 - VMI 発注先, 64
 - 品目顧客計画, 65
 - 倉庫, 65
 - 計画品目, 65
 - オーダー計画
 - VMI 役割の計画品目を決定するには, 13
 - 計画
 - 最小/最大在庫レベル, 53, 57
 - 最小および最大在庫レベル, 54
 - 購買オーダー, 65
 - 発注先別供給計画, 9
 - VMI
 - 確認済供給, 37
 - 確認済供給タイプ, 38
 - 確認済供給にもとづく計画, 43
 - 確認済需要および未確認需要, 27, 29, 31
 - 確認済予測と未確認予測, 28
 - 供給計画, 18, 23
 - 供給計画、顧客側, 20
 - 計画、手順、概要, 15
 - 計画方法および補充方法, 41, 50, 51
 - 最小/最大在庫レベル, 53, 57
 - 最小および最大在庫レベル, 54
 - 最小在庫レベルにもとづく計画, 44
 - 凍結ゾーン, 33, 34
 - 発注先と顧客の対話, 9
 - 補充, 47, 51
 - 予測, 25
 - 予測にもとづく計画, 42
 - VMI 取引先選択, 12
 - 取引先選択
 - VMI, 12
 - VMI 関係
 - 決定するには, 13
 - 決定するには
 - VMI 関係, 13
 - 決定
 - 決定, 13
 - 顧客の供給計画を実行するには
 - 設定, 15
 - 発注先側
 - 発注先側, 18
 - 発注先が供給計画を実行できるようにするには, 20
 - 発注先別
 - 供給計画, 23
 - 確認済需要および未確認需要, 27
 - 確認済予測および未確認予測, 27, 29, 31
 - 確認済予測と未確認予測
 - 決定方法, 28
-

確認済予測の決定方法, 28
確認および未確認予測の設定法
 顧客側, 29
 発注先側, 31
凍結ゾーン, 33, 34
計画方法および補充方法 (VMI), 41
計画方法および補充方法
 VMI, 50, 51
予測にもとづく VMI 計画, 42
確認済供給にもとづく VMI 計画, 43
最小在庫レベルにもとづく VMI 計画, 44
最小および最大在庫レベル
 VMI, 54
倉庫オーダ, 66
発注先, 68
販売業者管理在庫 (VMI), 66
有効化構成, 66
有効化コード, 67
品目, 67
販売オーダ, 67
在庫レベル, 67
販売契約, 68
直送, 68
製造オーダ, 68
購買契約, 68
購買元取引先, 68
販売先取引先, 69
有効期限, 69
品目コード, 69
品目グループ, 69
最大在庫レベル, 69
最小在庫レベル, 69
製品タイプ, 69
セグメント化, 69
出荷先取引先, 70
出荷先顧客, 70
条件合意, 70
条件グループ, 70
条件ライン, 70
条件検索属性, 70
在庫バッファ, 70
有効期間, 70
凍結日数 (-), 70
凍結日数 (+), 71
計画者, 71
倉庫移動, 71
ビジネスオブジェクト文書 (BOD), 71
在庫処理タイプ, 71
